

秋 田 県 立 博 物 館

年

報

令和 3 年 度

秋田県立博物館



は じ め に

秋田県立博物館は、昭和50年5月、郷土の自然と人文に関する認識を深め、県民の学術及び文化の発展に寄与すべく設立されました。その後、増築やリニューアルを経て、8部門を擁する総合博物館として、県民の生涯学習に資するとともに、県内の各種博物館の中心的役割を果たしながら、その歴史を重ねてきました。

開館から46年目となりますが、昨年来のコロナ禍が未だ収束の気配を見せず、感染拡大防止に注力しながらの運営を余儀なくされています。様々な制約のある厳しい状況ではありますが、「中期ビジョン2020－2024」の下、秋田の豊かな文化遺産を生かした学びを通して、郷土への愛着と誇りを醸成し、かけがえのない「ふるさと秋田」の魅力を広く発信することにより、地域に貢献する博物館を目指してまいります。

博物館は、県民や地域社会から託された資料を大切に保存・管理しつつ、調査研究活動を重ね、その成果を次世代へと伝える役割を担っています。本県の生涯学習は、学びを生かした活動にチャレンジすることを目指していますが、その活動には「対話と連携」の精神が求められています。「知」を伝承し、「知」に触れることの感動や学び合うことの楽しさを伝えながら、新しい価値を創造する博物館、生涯学習・学校教育の一翼を担いながら、多様な機能を発揮する博物館を目指して全職員で努力してまいります。

県民文化の発展に寄与する博物館としての使命を果たすために、先行研究に学び、資料に学び、そして来館者に学ぶという姿勢を忘れず、職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

秋田県立博物館

館長 今 川 拓

目次

■ 施設の概要

I 博物館のあゆみ	4
II 施設・設備	5
III 展示室	9
IV 組織	13
V 職員	14

■ 事業の概要

I 令和3年度博物館運営方針	16
II 令和3年度博物館事業計画	16
1 重点目標	16
2 活動計画	17
III 令和2年度事業報告	20
1 調査研究活動	20
2 資料収集管理活動	23
3 展示活動	25
4 教育普及活動	31
5 広報出版活動	34
6 学習振興活動	36
7 館外活動	38
8 令和2年度のあゆみ	39

■ 資料

I 収蔵資料の概要	42
II 歴代館長、特別展等一覧	43
III 秋田県立博物館条例	44
IV 秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋）	45
教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋）	45
V 入館者に関する資料	46



施設の概要

I 博物館のあゆみ

- 昭和42年 1 月 第2次秋田県総合開発計画の中で、総合博物館の建設計画を立案
12月 県立博物館の建設場所を秋田市金足に決定
47年 3 月 県立博物館設立構想完成
49年11月 定礎式
50年 3 月 秋田県立博物館条例制定
5 月 開館式（5日）
一般公開（10日）
旧奈良家住宅（重要文化財）分館として博物館に移管される
7 月 登録博物館となる（登録日50.7.1）
53年10月 皇太子皇太子妃両殿下行啓
54年 1 月 生物部門展示室「秋田の自然と生物」オープン
55年 5 月 秋田県博物館等連絡協議会発足
59年 9 月 開館10周年記念式典
63年 9 月 本館屋根防水工事完了
平成 3 年 8 月 秋田県立博物館再編構想案作成のため委員会を開催
9 月 分館旧奈良家住宅屋根修理着工
4 年11月 分館旧奈良家住宅屋根修理完成
5 年 7 月 増築工事着工
7 年 8 月 増築工事完成
8 年 4 月 「秋田の先覚記念室」「菅江真澄資料センター」オープン
9 年 8 月 ニューミュージアムプラン（NMP）21検討委員会設置
11年 4 月 入館料が無料となる
14年 4 月 ニューミュージアムプラン（NMP）21に伴う改修工事のため、「秋田の先覚記念室」・「菅江真澄資料センター」・分館旧奈良家住宅を除き閉館
15年10月 改修建築・設備工事完成
縄文時代の階段状石積み遺構を移設復元
16年 3 月 展示工事完成
4 月 リニューアルオープン
17年12月 開館30周年記念式典
18年 3 月 旧奈良家住宅附属屋、登録有形文化財に登録
20年 7 月 クニマスの液浸標本が、動物として初めて国の登録記念物に指定される
27年 9 月 開館40周年記念式典

Ⅱ 施 設 ・ 設 備

設 置 場 所	秋田市金足鳩崎字後山52	(株)中田建築設備
敷 地 面 積	14,885.9㎡	(株)ユアテック秋田支社
建 築 面 積	6,237.93㎡	サン電気工業(株)
建築延面積	11,946.2㎡	展示製作実施設計 (株)丹青社
建 築 構 造	鉄骨鉄筋コンクリート造り 地上3階、塔屋2階建	展示製作委託施工 (株)乃村工藝社

【建築工事】

建 築 費	2,058,131千円 (含調査事務費・展示資料費)
着 工	昭和48年7月
竣 工	昭和49年11月
開 館	昭和50年5月
工事業者	建築設計 (株)安井建築設計事務所 建築施工 三井建設(株) 設備施工 (株)三晃空調 東北電気工事(株) 展示設計施工 (株)丹青社

【増築工事】

建 築 費	1,578,174千円 (含調査事務費・展示資料費)
着 工	平成6年7月
完 成	平成8年2月
増設開館	平成8年4月
工事業者	建築設計 (株)安井建築設計事務所 建築施工 三井建設(株) 設備施工 (株)ユアテック 日の出施設工業(株) (株)三和施設 日本オーチスエレベータ(株) 展示設計施工 (株)アートシステム

【NMP事業】

事 業 費	2,087,400千円 {総事業費(含調査事務費、 展示製作委託費)}
着 工	平成14年3月
完 成	平成16年3月
リニューアル開館	平成16年4月29日
工事業者	建築設計 (株)安井建築設計事務所 建築施工 (株)林工務店 (株)清水組JV 設備施工 大民施設工業(株) (株)あたごJV

設 備

〈電気設備〉

- (1) 受電電圧 3φ6,600V 50HZ
一般照明用 450KVA (150×3)
一般動力用 550KVA (300×1)
(250×1)
非常照明用 50KVA
非常動力用 150KVA
- (2) 発電機設備 発電電圧 3φ6,600V
50HZ 200KVA
エンジン ディーゼル 230KVA
- (3) 蓄電池設備 108V 200AH 10HR
54セル
- (4) その他幹線・動力・電灯用設備一式

〈警戒(報)設備〉

- (1) レーダー警報設備(展示室・収納庫)
方式、パッシブインフラレッド方式
レーダー検出 10ヶ所
ドアスイッチ 10ヶ所
- (2) I・T・V監視設備
監視用カメラ 21台
(展示室14台 収蔵庫4台
1Fホール1台 外2台)
- (3) 一般・非常放送設備
ロッカ型防災アンプ 容量 200W
非常時警報音 自動吹鳴式(サイレン)

〈空調換気設備〉

- (1) 冷凍機設備(備熱水槽方式 容量780m³)
直焚吸収式冷温水機 冷却能力
1,220KW 加熱能力 1,200KW 1基
ターボ冷凍機(夜間蓄熱運転系統)
冷却能力 312KW 1基
空冷チリングユニット(夜間運転系統)
冷却能力 132KW 1基
- (2) ボイラー設備
貫流ボイラー(暖房・加湿用) 熱出力 940KW
(換算蒸発量1,500kg/h)

伝熱面積 9.9m ³ 2基	屋内消火栓24ヶ所 屋外消火栓24ヶ所
(3) 空気調和設備 (10系統)	ハロン消火設備 (収蔵庫のみ 3区画)
冷却能力合計 897.8KW	二酸化炭素消火設備 (収蔵庫のみ 2区画)
加熱能力合計 524.6KW	〈その他の設備〉
(4) 換気設備一式	(1) 荷物用エレベーター
給気量 (7系統) 合計 25,850m ³ /h	容量2,500kg 45m/min 1基
排気量 (9系統) 合計 28,360m ³ /h	(2) 乗用エレベーター
(5) 空調自動制御設備一式	積載量750kg 11人乗45m/min 2基
〈防火防災設備〉	(3) 電話設備 局線5回線 内線57回線
(1) 防災設備 排煙口32ヶ所・タレ壁20ヶ所	(4) 衛生設備 給排水設備一式
防火戸47ヶ所	(5) ガス設備及び避雷針設備
(2) 消火設備 屋内外消火栓設備一式	(6) ガス燻蒸消毒設備

建 築 予 算

単位：千円

区 分	44～46年度	47 年 度	48 年 度	49 年 度	計	財 源 内 訳
計 画 策 定 費	17,980	34,267	16,960	10,195	79,402	国庫 80,000
建 物 費	—	—	591,754	760,996	1,352,750	
展 示 ・ 資 料 費	41,880	20,000	183,907	318,758	564,545	県債 1,241,000
初度調弁・その他	—	—	3,240	35,400	38,640	
調 査 事 務 費	7,246	5,835	5,828	3,885	22,794	一般 737,131
計	67,106	60,102	801,689	1,129,234	2,058,131	

増 築 予 算

単位：千円

区 分	3～4年度	5 年 度	6 年 度	7 年 度	計	財 源 内 訳
計 画 策 定 費	10,850	57,125	6,845	7,268	82,088	県債 1,117,000
建 物 費	—	—	354,805	613,438	968,243	
展 示 ・ 資 料 費	—	1,500	141,784	310,534	453,818	一般 461,174
初度調弁・その他	—	—	—	11,000	11,000	
調 査 事 務 費	2,200	9,770	22,257	28,798	63,025	
計	13,050	68,395	525,691	971,038	1,578,174	

NMP21事業予算

単位：千円

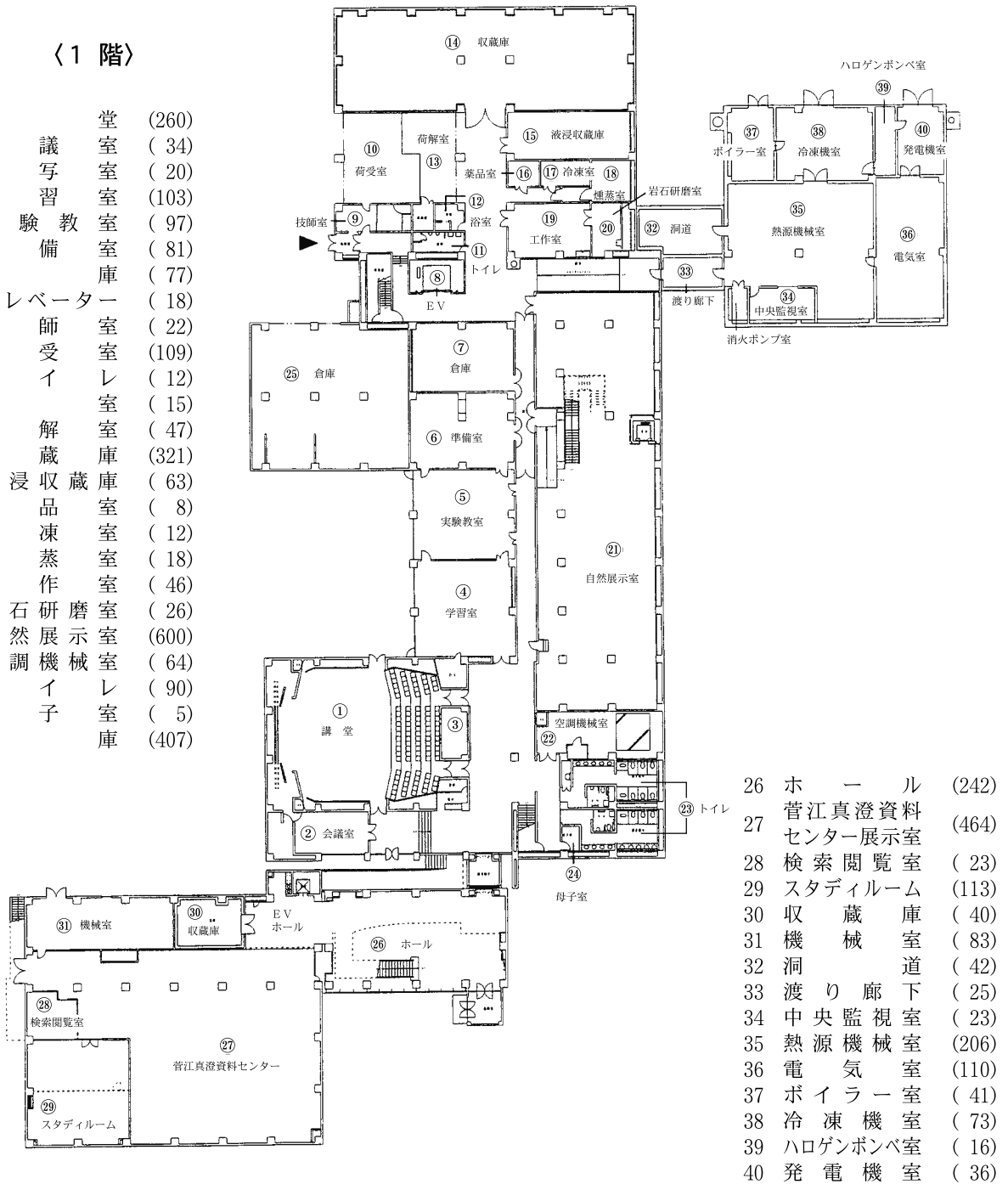
区 分	11年度	13年度	継 続 費			小計	事業費合計	財源内訳
			13年度	14年度	15年度			
工事請負費	—	—	0	646,007	396,418	1,042,425	1,042,425	県債 1,516,000
委 託 費	9,870	39,995	0	60,676	919,184	979,860	1,029,725	
調査事務費	5,250	—	1,296	4,522	4,182	10,000	15,250	一般 571,400
計	15,120	39,995	1,296	711,205	1,319,784	2,032,285	2,087,400	

一各階平面図一

() 内の数字は面積 (単位㎡)

〈1 階〉

1	講	堂	(260)
2	会	議室	(34)
3	映	写室	(20)
4	学	習室	(103)
5	実	験教	(97)
6	準	備室	(81)
7	倉	庫	(77)
8	エ	レベーター	(18)
9	技	師室	(22)
10	荷	受室	(109)
11	ト	イレ	(12)
12	浴	室	(15)
13	荷	解室	(47)
14	収	蔵庫	(321)
15	液	浸収蔵庫	(63)
16	薬	品室	(8)
17	冷	凍室	(12)
18	燻	蒸室	(18)
19	工	作室	(46)
20	岩	石研磨室	(26)
21	自	然展示室	(600)
22	空	調機械室	(64)
23	ト	イレ	(90)
24	母	子室	(5)
25	倉	庫	(407)



部門別床面積(㎡)

展示部門	3,620
研究部門	388
収蔵部門	1,999
教育普及部門	595
計	6,602

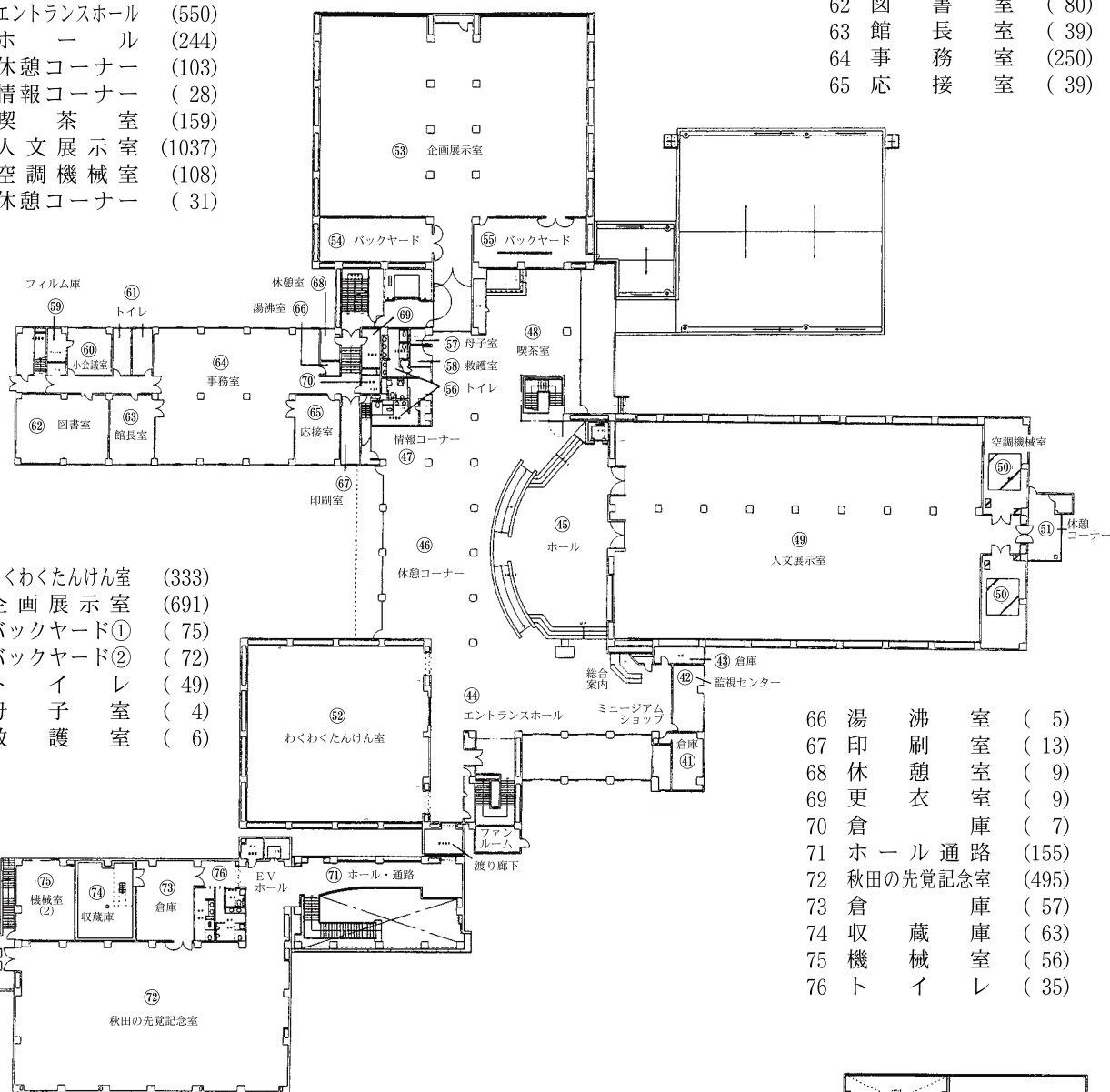
階別面積(㎡)

1階	4,546.578
2階	5,530.486
3階	1,706.694
屋階	162.44
計	11,946.198

〈2 階〉

- 41 倉 庫 (23)
- 42 監視センター (25)
- 43 倉 庫 (14)
- 44 エントランスホール (550)
- 45 ホール (244)
- 46 休憩コーナー (103)
- 47 情報コーナー (28)
- 48 喫茶室 (159)
- 49 人文展示室 (1037)
- 50 空調機械室 (108)
- 51 休憩コーナー (31)

- 59 フィルム庫 (9)
- 60 小会議室 (26)
- 61 トイレ (29)
- 62 図書室 (80)
- 63 館長室 (39)
- 64 事務室 (250)
- 65 応接室 (39)

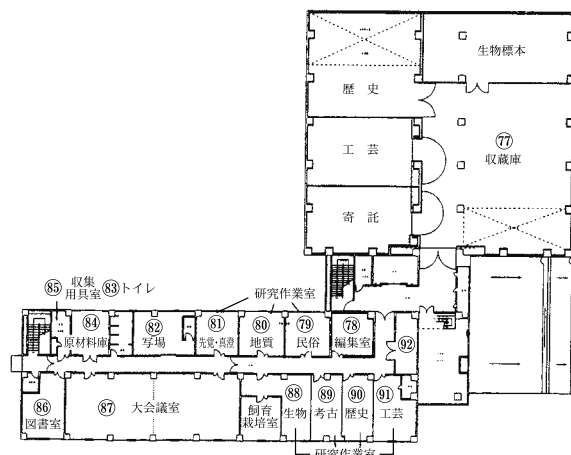


- 52 わくわくたんけん室 (333)
- 53 企画展示室 (691)
- 54 バックヤード① (75)
- 55 バックヤード② (72)
- 56 トイレ (49)
- 57 母子室 (4)
- 58 救護室 (6)

- 66 湯沸室 (5)
- 67 印刷室 (13)
- 68 休憩室 (9)
- 69 更衣室 (9)
- 70 倉庫 (7)
- 71 ホール通路 (155)
- 72 秋田の先覚記念室 (495)
- 73 倉庫 (57)
- 74 収蔵庫 (63)
- 75 機械室 (56)
- 76 トイレ (35)

〈3 階〉

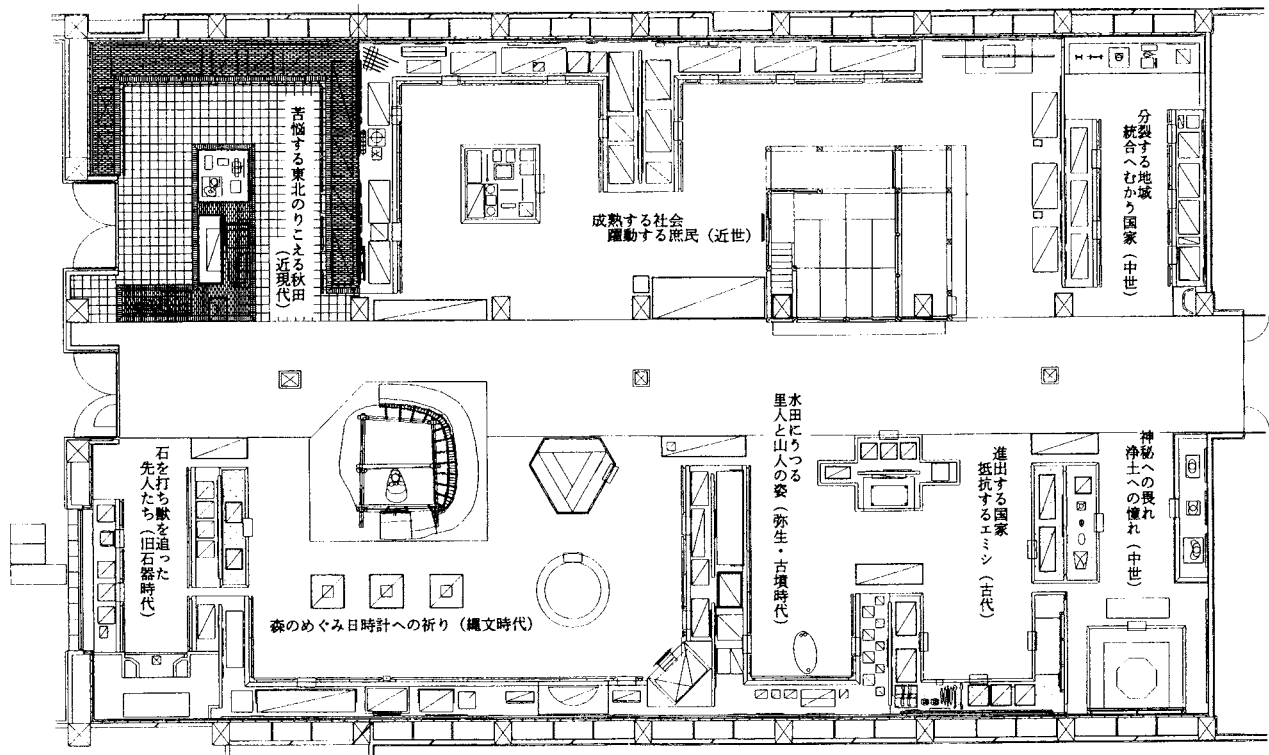
- 77 収蔵庫 (840)
- 78 編集室 (27)
- 79 研究作業室(民俗) (28)
- 80 " (地質) (28)
- 81 " (先覚・真澄) (27)
- 82 写場・暗室 (38)
- 83 トイレ (15)
- 84 原材料庫 (24)
- 85 収集用具室 (10)
- 86 図書室 (34)
- 87 大会議室 (158)
- 88 飼育栽培室・研究作業室(生物) (62)
- 89 研究作業室(考古) (27)
- 90 " (歴史) (27)
- 91 " (工芸) (39)
- 92 倉庫 (19)



Ⅲ 展 示 室

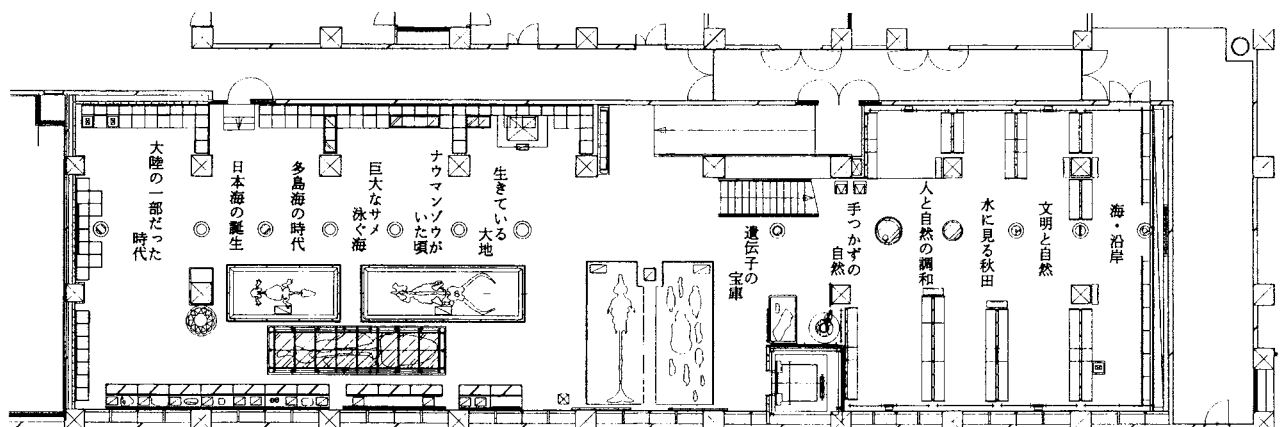
◆ 人文展示室

旧石器時代から近現代までの、秋田の歴史と人々の生活史を紹介する。従来の強制的動線を排し、開放的な雰囲気の中で自由に好きなコーナーを見学できるように構成している。豊富な実資料のほか、縄文時代の竪穴住居や近世の商家が実物大で復元されており、実際に中に入って当時の雰囲気を体感することもできる。

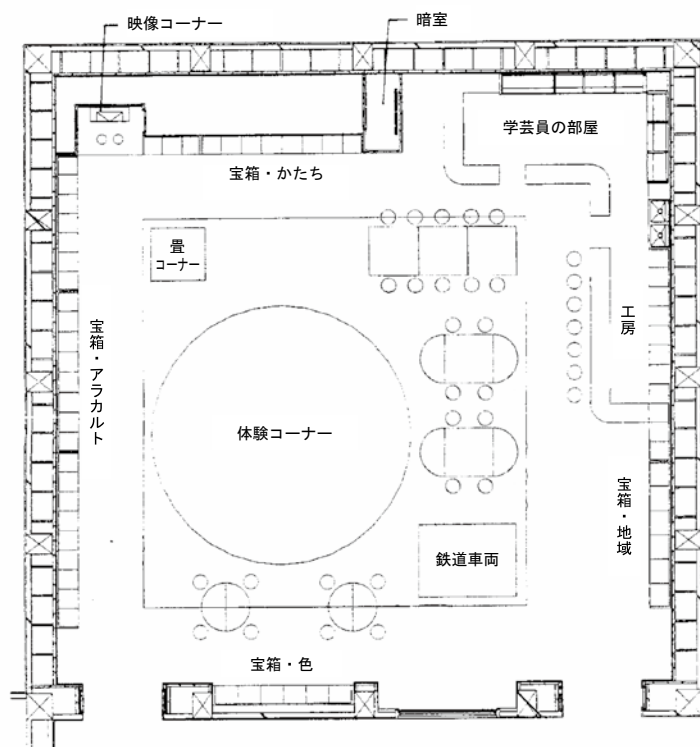


◆ 自然展示室

「いのちの詩」(生物)・「大地の記憶」(地質)の二つの大テーマから、秋田の豊かな自然を豊富な実資料で紹介する。生きているそのままの姿の標本や、迫力ある大型骨格標本をはじめ、自然の魅力を余すところなく映し出す映像資料も展示している。



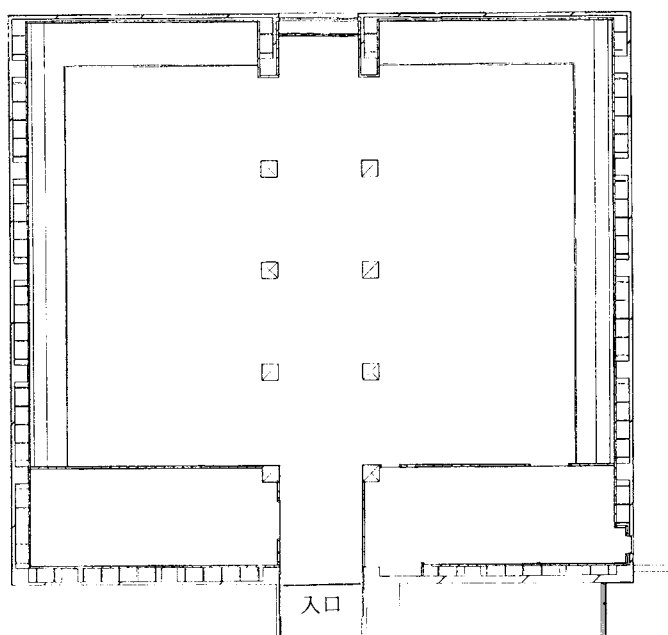
◆ わくわくたんけん室



「宝箱」に入った豊富なアイテムを使い、「みて、ふれて、しらべて、やってみる」をキーワードに設計した。楽しく体験活動しながら秋田についていろいろな角度から学ぶことができる。図書で調べものができる学芸員の部屋や、ビデオやDVDが見られる映像コーナーなどもある。



◆ 企画展示室



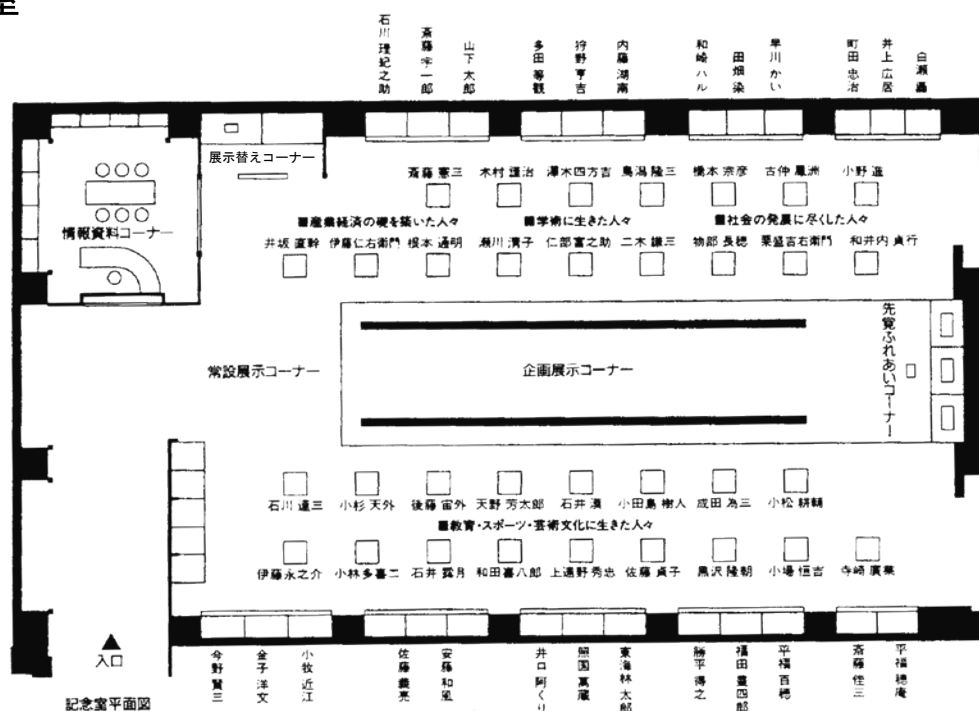
従来の展示室の約二倍の広さを確保。高透過ガラスを用いた壁面ケースは、すべてエア・タイトケースで、内部はつねに温湿度が一定に保たれている。これによって国宝・重要文化財クラスの資料を含む大規模な特別展も可能になった。



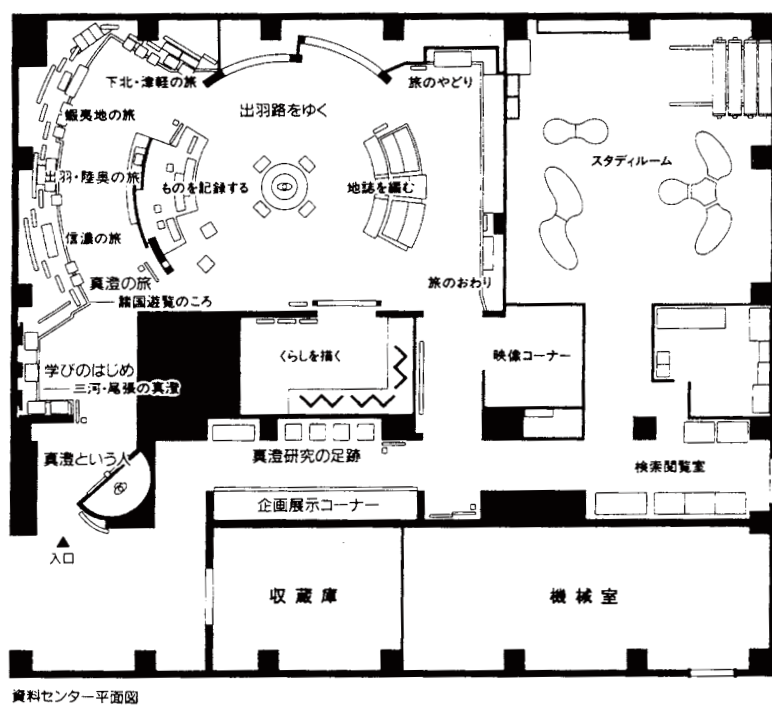
◆ 秋田の先覚記念室

近代秋田の豊かな産業や文化の礎を築いた多くの先覚の記録・資料を一堂に集めて展示している。情報資料コーナーでは先覚に関する著書や出版物の閲覧ができる。

パソコンなどの利用により、さまざまな情報を提供している。



◆ 菅江真澄資料センター



江戸時代の紀行家・
文人菅江真澄の生涯
と、彼が著した日記や
図絵を展示するほか、
多くの映像機器によ
り、真澄の生きた時代
などをわかりやすく展
示している。

スタディルーム、検索閲覧室では、真澄をより深く学ぶことができる。

◆ 分館・旧奈良家住宅

所在地 秋田市金足小泉字上前8 電話 018 (873) 5009

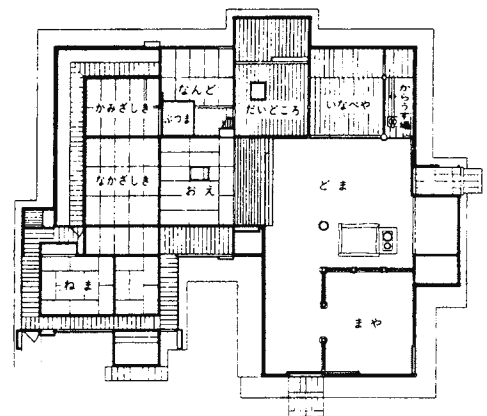
旧所有者 奈良恭三郎（昭和44年5月寄贈）

昭和40年5月29日 重要文化財（建築面積 459.08㎡）

旧奈良家住宅はJR東日本奥羽本線追分駅から2.5km、博物館から1kmの男湯北岸の小泉地区にある。

建築様式は秋田県中央部の海岸地帯の典型的な大型両中門の農家建築で、建築年代が明らかで、当初の姿をよく残している。

昭和40年に秋田県では最初の民家建造物としての国指定を受けたもので、県立小泉潟公園の博物館に隣接する文化財として広く公開するため分館とした。奈良家は江戸時代初期にこの地に土着して以来の豪農で、現存の住宅は宝暦年間（1751～1763年）9代喜兵衛が銀70貫と3年の歳月をかけて完成したもので、棟梁は土崎港の間杉五郎八と記録されている。



◆ 旧奈良家住宅附属屋

敷地内にある附属屋は平成18年3月に登録有形文化財に指定された

味噌蔵……明治7年に建造された、土蔵造の建物

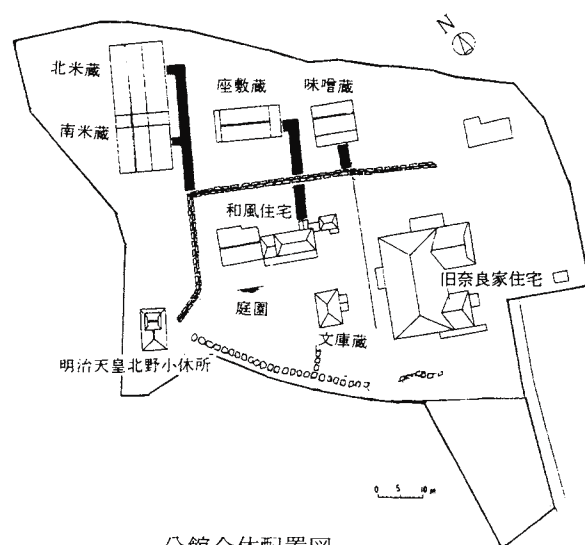
座敷蔵……明治23年に建造された、土蔵造の建物

米蔵……北米蔵は明治41年に、南米蔵は明治26年に建造

明治天皇北野小休所（移築）……明治14年に建造された、木造平屋建の建物

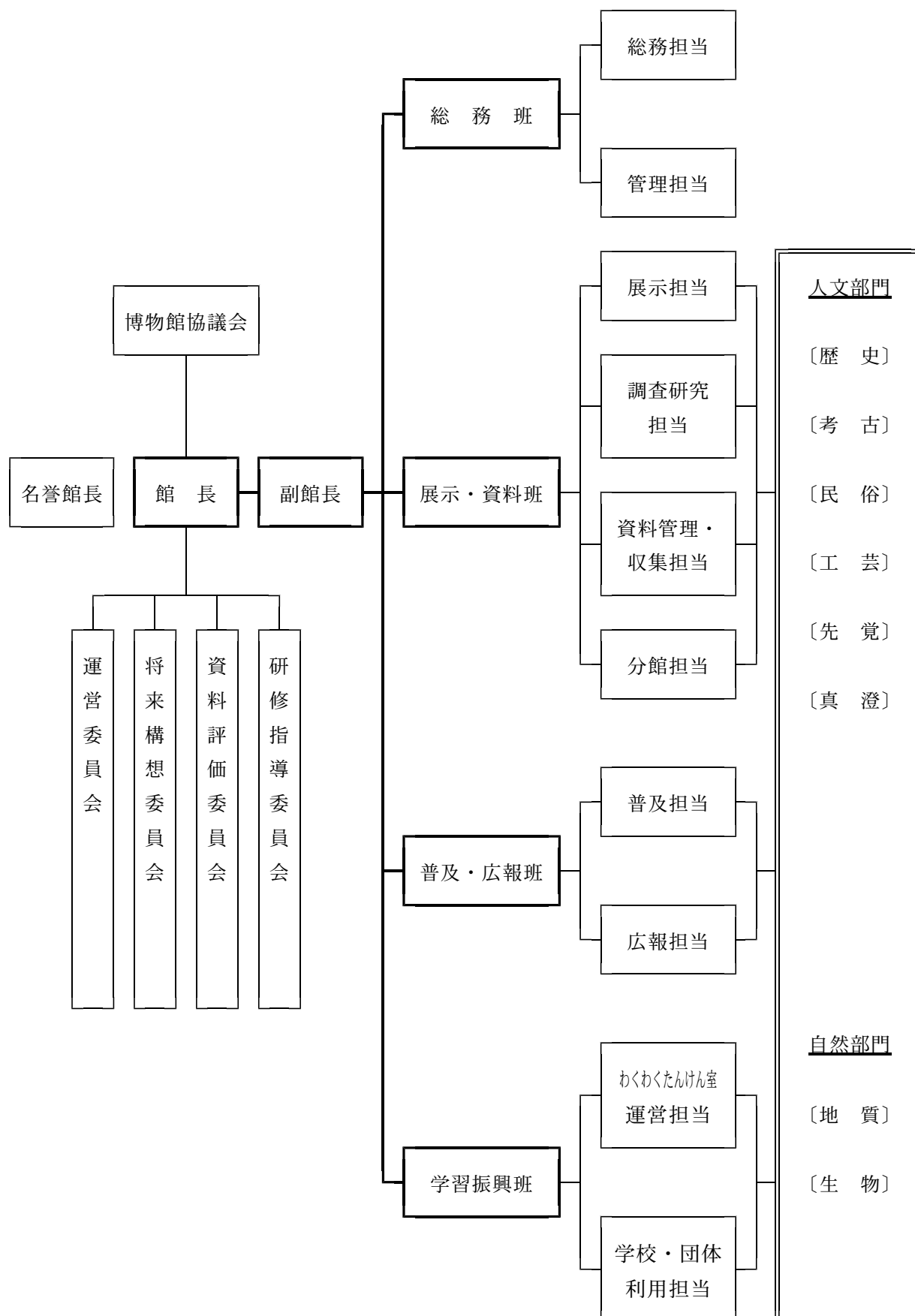
和風住宅……明治28年に建造された、木造二階建の建物

文庫蔵……大正13年に建造された、木造二階建の建物



分館全体配置図

IV 組 織



V 職 員

班名	職 名	氏 名	各班の分掌と部門担当
	館 長	今 川 拓	総括
	副 館 長	小 野 博 美	館長の補佐
総務班	副 主 幹 (兼) 班 長	児 玉 弥生子	班の総括、危機管理に関すること
	副 主 幹	柿 崎 幸	服務、給与に関すること、歳入予算に関すること
	主 事	佐 藤 麗美奈	管理、営繕に関すること、歳出予算に関すること
	技 能 主 任	武 田 光 彦	空調設備運転に関すること、施設設備管理に関すること
	技 能 主 任	佐 藤 彰 洋	公用車運転に関すること、施設設備管理に関すること
展示・資料班	主任学芸主事 (兼) 班 長	山 本 丈 志	班の総括、工芸部門に関すること
	副 主 幹	新 堀 道 生	歴史部門に関すること、展示企画・資料管理に関すること
	副 主 幹	丸 谷 仁 美	民俗部門に関すること、展示企画・調査研究に関すること
	主 査 (兼)学芸主事	松 山 修	真澄部門に関すること、資料管理・展示企画に関すること
	学 芸 主 事	深 浦 真 人	民俗部門に関すること、展示企画・資料管理に関すること
	学 芸 主 事	藤 中 由 美	生物部門に関すること、展示企画・調査研究に関すること
普及・広報班	学 芸 主 事	安 田 ゆきこ	先覚部門に関すること、調査研究・資料管理に関すること
	主任学芸主事 (兼) 班 長	藤 原 尚 彦	班の総括、工芸部門に関すること
	副 主 幹	加 藤 竜	考古部門に関すること、教育普及に関すること
	学 芸 主 事	黒 川 陽 介	歴史部門に関すること、広報に関すること
	学 芸 主 事	斉 藤 洋 子	工芸部門に関すること、教育普及に関すること
学習振興班	学 芸 主 事	角 崎 大	真澄部門に関すること、広報に関すること
	主任学芸主事 (兼) 班 長	池 端 広 樹	班の総括、生物部門に関すること
	副 主 幹	三 浦 たみ子	先覚部門に関すること、学校団体利用に関すること
	主 査 (兼)学芸主事	渡 部 均	地質部門に関すること、学校団体利用に関すること
	主 査 (兼)学芸主事	大 森 浩	地質部門に関すること、学校団体利用に関すること
	学 芸 主 事	渡 部 猛	考古部門に関すること、学校団体利用に関すること

[会計年度任用職員]	加賀谷 洋 子(展示解説・案内)	嵯 峨 彩 子(学芸補助)
畑 澤 俊 視(ボイラー)	小 林 純 子(同)	佐々木 由 衣(同)
三 浦 信 一(同)	佐 藤 里 美(同)	藤 井 千 里(同)
黒 沢 清 直(守 衛)	関 谷 百 世(同)	唐津谷 浩 生(同)
石 黒 司(同)	工 藤 奈 緒(同)	
鈴 木 博(同)	廣 嶋 綾 子(同)	
最 上 武 元(同)	三 浦 由華子(同)	
虻 川 政 法(工 作)	渡 會 知 子(同)	
	宮 腰 満実子(同)	



事業の概要

I 令和3年度博物館運営方針

県民の生涯学習の拠点として、県民とともに歩む博物館運営に一層努め、県民文化の向上に寄与する。

- 1 本県の生涯学習を支え、推進する館運営を積極的に行う。
- 2 県民のニーズに応える博物館活動の在り方を追求する。
- 3 郷土秋田の自然や文化、歴史等に親しむことができる環境整備を図る。
- 4 県内外の博物館、類似施設、諸研究機関、教育機関、ボランティア団体等との連携を図る。

II 令和3年度博物館事業計画

1 重点目標

- (1) 博物館活動の核となる調査研究活動の一層の充実を図り、知的資産を創造し、地域に還元する。
 - ア 県民の郷土理解・ふるさと教育に資する調査研究を計画的に推進する。
 - イ 調査研究の成果を広く一般に公開する。
- (2) 県民の文化的向上に資するため、郷土資料を中心とした資料の収集・保存・活用の推進を図る。
 - ア 長期的展望に立ち、計画的に資料を収集・整理・保存する。
 - イ 収蔵及び展示資料のデジタルデータ化を推進し、効果的な活用を進める。
- (3) 驚きや感動があり、親しまれる展示活動を推進する。
 - ア 県民のニーズに合致した見応えのある特別展・企画展を実施する。
 - イ 来館者の声を活かし、県民目線にたち、他の機関とも連携した展示活動を実施する。
- (4) 博物館活動の普及とサービスの一層の向上に努める。
 - ア 博物館教室、展示関連事業などにより、普及活動の充実を図る。
 - イ 諸機関との連携講座や出前講座等を推進し、博物館活動の普及に努める。
- (5) 郷土に親しみと愛着がもてるような博物館活動の広報を行う。
 - ア 印刷物やホームページ、SNSなどさまざまな媒体を用いて博物館活動の様子と郷土の魅力を発信する。
- (6) 博物館利用の支援や促進に努め、県民の生涯学習の充実に資する。
 - ア 体験活動の充実を図る等、親しみやすい博物館運営に努める。
 - イ 内容や広報の充実を図ることで、学校団体によるセカンドスクールの利用を促す。

2 活動計画

調査研究

◇部門研究の推進

- ・歴史 土崎湊小宿松本家の業態
館所蔵の城絵図および関係資料の調査
- ・考古 秋田県内出土の玦状耳飾について
大正後期から昭和初期における秋田の考古界
の情勢について～深澤多市関連資料を中心と
して～
- ・民俗 収蔵資料の調査
甲子園の土の生みの親 石川真良について
- ・工芸 秋田県内における漆工に関する調査～紫塗～
秋田県で生産された布・衣類について～素材
と生産形態～
- ・先覚 先覚者・近江谷栄次と小牧近江父子の展示へ

向けての調査

- ・真澄 展示公開に向けた深澤多市資料の整理
真澄が記録した雨乞習俗に関する内容につい
ての整理と展示公開
- ・地質 秋田県内のコンクリーションについて
秋田県の石材
- ・生物 金足地区周辺の鳥類相の調査
秋田の外来生物

◇共同研究、博物館学的研究の推進

- ・企画展示室の可能性 「美の國の名残」による実践
- ・収蔵庫整理と資料リスト作成

資料収集管理

◇資料収集・整理・保存・管理の徹底

◇燻蒸消毒作業

- ・収蔵庫 ◎燻蒸期間 8月23日(月)～30日(月)

◇資料データベース化の推進

◇収蔵庫管理の推進

展示

◇展示活動

- ・企画展示室における企画展・特別展
企画展「美の國の名残」
4月29日(木)～6月27日(日)
企画展「秋田野球ものがたり」
7月17日(土)～8月22日(日)
特別展「佐竹氏遺宝展」
9月18日(土)～11月14日(日)
企画展「外来生物」
12月4日(土)～令和4年4月3日(日)
- ・菅江真澄資料センター企画コーナー展
「大館・真崎文庫の真澄関連資料」
7月10日(土)～9月5日(日)
「真澄の記録に見る雨乞習俗」
10月16日(土)～12月5日(日)
「真澄が暮らしたまち ー秋田市ー」
令和4年3月19日(土)～5月15日(日)
- ・秋田の先覚記念室企画コーナー展
「近江谷栄次と小牧近江」
9月25日(土)～11月28日(日)

- ・ふるさとまつり広場
新緑の季節 子どもの成長を願う天神人形
4月23日(金)～5月25日(火)
夏のまつり 七夕絵どうろう
6月11日(金)～8月22日(日)
秋の夜長を楽しむ 明かりの道具
9月10日(金)～11月16日(金)
新しい年に向けて 干支の人形
12月3日(金)～令和4年2月1日(火)
春の訪れ ひな人形・押絵
令和4年2月18日(金)～4月5日(水)
- ・常設展示室における可変展示
- ・他施設との連携展示
秋田県立図書館
「悪疫退散！～災いをはらい、福を呼ぶ～」
4月3日(土)～5月25日(火)

教育普及

◇博物館教室・講演会

- (1) 化石と地層の観察会
5月23日(日)、5月30日(日)
- (2) 昆虫教室ー採集と標本づくりー
7月11日(日)、8月8日(日)
- (3) 山野の危険な生物
7月25日(日)
- (4) くん製教室 初級編
9月19日(日)
- (5) 貝の標本づくり
9月26日(日)、10月3日(日)
- (6) 「真澄に学ぶ教室」講読会ー県外の日記を読むー
土曜日コース 5月22日、6月26日、7月24日、
9月25日、10月23日、11月27日
日曜日コース 5月23日、6月27日、7月25日、
9月26日、10月24日、11月28日
- (7) 初心者向け 秋田の歴史教室(戦国・桃山編)
7月18日(日)、8月8日(日)
- (8) 土器作り教室
9月26日(日)、10月24日(日)
- (9) 三浦館と旧奈良家住宅の見学会
9月30日(木)
- (10) 地域回想法
10月9日(土)、11月14日(日)
- (11) 旧奈良家住宅で昔語り
10月16日(土)
- (12) 土製アクセサリ作り
11月6日(土)、11月13日(土)
- (13) 初めての古文書解読
2月6日、2月13日、2月20日、2月27日、
3月6日、3月13日(いずれも日曜日)
- (14) 秋田の先覚者
2月12日(土)
- (15) 民俗学入門講座
3月5日(土)、3月12日(土)
- (16) 初めての藍の絞り染め(全4回)
5月22日(土)、6月9日(水)、6月10日(木)、
6月11日(金)、7月10日(土)、7月28日(水)、
7月29日(木)、8月4日(水)
- (17) 糸をつむぐ
6月5日(土)、7月8日(木)、
11月18日(木)、12月11日(土)
- (18) 木工芸 木のオブジェづくり
ランドスケープスカルプチャー
7月4日(日)
- (19) 夏休み企画!!キッズ限定 樹皮を編んで小物入れ
を作ろう
7月27日(火)
- (20) 植物を編む
11月5日(金)
- (21) ゼロからはじめるワラ仕事(全3回)
11月17日(水)、11月24日(水)、12月1日(水)
- (22) 木工芸 Christmas Ornament
12月5日(日)
- (23) 博物館の仕事 体験教室
8月6日(金)、8月7日(土)
- (24) 秋田をまなぶ講座 シリーズ2021
「阿仁鉱山と院内銀山の結びつき」
7月3日(土)

- (25) 「真澄に学ぶ教室」講演会第1回
「菅江真澄の「善知鳥」考」
7月11日(日)
- (26) 講演会「三吉霊神の謎を解くーこの神はいかなる神
であるのかー」
10月3日(日)
- (27) 「真澄に学ぶ教室」講演会第2回
10月10日(日)
- (28) 秋田の先覚記念室講演会
10月31日(日)

◇名誉館長館話

- (1) 「秋田史談」前期
①秋田と海運
5月21日(金)
②秋田城の存在意義
6月18日(金)
③秋田の支配豪族
7月16日(金)
- (2) 「秋田史談」後期
①安藤昌益
9月10日(金)
②佐藤信淵
10月8日(金)

◇イベント

- (1) 「軒の山吹」再現
4月末～5月初
- (2) ミュージアム・コンサート
令和4年3月

◇ミュージアム・トーク

◇展示付帯事業

◇館外講座

- (1) 出前講座(県庁出前講座)
- (2) 出張講座
- (3) 出前授業
- (4) 連携講座
- (5) その他

◇県内外の博物館等類似施設との連携

- (1) 日本博物館協会東北支部・東北地区博物館協会
- (2) 秋田県博物館等連絡協議会
- (3) 秋田市内文化施設連絡会議(みるかネット)

◇博物館友の会との連携

◇博物館ボランティア「アイリスの会」との連携

◇各種研修・実習等の受け入れ

- (1) 博物館実務実習(大学)
- (2) 中堅教諭等資質向上研修
- (3) 教育センターと連携した研修

広報・出版

◇広報活動

- ・事業に関する広報計画の策定と実施
展示・イベント広報
配布・発送計画
- ・その他の広報活動の実施と改善
ホームページ、フェイスブックページの充実
プレスリリースの充実
広報資料、出版物等の管理
館内掲示物の管理

◇出版物の刊行・配布

- ・年報 令和3年度 A4判 47頁 800部
- ・博物館ニュースNo.173・174
A4判 8頁 各2,300部

- ・秋田県立博物館研究報告第47号

- A4判 90頁 600部
- ・広報紙「真澄」No.39 A4判 8頁 1,500部
- ・真澄研究第26号 A5判 100頁 500部
- ・企画展「美の國の名残」展示資料解説
A4判 12頁 1,000部
- ・秋田の先覚記念室企画コーナー展展示解説資料
A4判 8頁 1,000部
- ・展示ポスター、広報チラシ
企画展「美の國の名残 博物館の審美眼」
企画展「秋田野球ものがたり」
特別展「佐竹氏遺宝展－守り継がれた大名家資料－」
企画展「外来生物－運ばれる生き物たち－」

学習振興

◇わくわくたんけん室の運営

- ・一般及び団体利用の促進
- ・展示室との連携と企画運営
- ・季節イベントや季節アイテムの計画立案
- ・体験アイテムの保守管理
- ・消耗品の補充管理
- ・博物館ボランティアとの連携
- ・出張わくわくたんけん室の企画運営
- ・新アイテムの開発及び提供
- ・感染予防対策、衛生管理

◇学校団体の利用促進

- ・学校団体のセカンドスクールの利用の促進
- ・出前授業の広報及び利用促進
- ・学校利用の集計及び報告
- ・保育園、幼稚園、小中学校、高等学校の利用分析

◇その他、教育的支援

- ・「教員のための博物館の日」の計画と実施
- ・教員長期社会体験研修の受け入れ
- ・中学校職場体験、高校生インターンシップ・ボランティア活動の受け入れ
- ・大学との地域連携

分館・重要文化財旧奈良家住宅

主屋（重要文化財）を令和3年4月1日(木)から令和4年3月31日(木)まで公開。また附属屋（登録有形文化財）も外観のみ同期間公開。附属屋については内部公開

の希望に応えるために令和3年9月30日(木)に公開し学芸職員が解説を行うほか、昔語りの会を開催するなど、適宜公開する機会を設ける予定である。

Ⅲ 令和2年度事業報告

1 調査研究活動

部門研究は、特別展・企画展実施に向けた調査は少なく、個々の研究成果に止まった。いくつかの研究成果は今後の特別展・企画展への反映という形で展開が期待されるものだった。

「研究報告第46号」には、5件の報告、翻刻等が掲載された。「真澄研究25号」には講演記録、資料紹介など

5件が掲載された。

例年行っている調査研究報告会は、館内報告会を1月25日に行ったが、3月14日に予定されていた秋田県生涯学習センターでの一般公開の報告会は新型コロナウイルス対策のため中止となった。

部門研究

◇考古

(1)「秋田県内出土の玦状耳飾について」 加藤 竜
縄文時代早期末から中期前葉に盛行した装飾品の一つである玦状耳飾について、秋田県内出土例の集成を行い、可能な範囲で資料を実見した。集成作業の途上ではあるが24遺跡99点の出土例を確認し、発掘調査報告書で欠落していた使用石材情報を補足することができた。

集成資料を検討したところ、県内出土品の帰属時期は前期初頭を最古として早期末までは遡らないこと、使用石材には現在注目されている透閃石岩製のものが一定量含まれることが見通しとして得られた。調査結果については館内調査研究会で発表した。今後も集成作業を継続する予定である。

(2)「秋田県内の遺跡から出土した縄文時代の土製耳飾」 安田ゆきこ

土製耳飾の「形状」「文様」などについて、館所蔵の発掘調査報告書34件の中から292点を調査。「形状」は、環状・臼状・鼓状・栓状・蓋状・玦状・その他の7種類に分類。「文様」は、無文・全面（点など）・円形・三叉文・放射状の線・渦巻き・三角形・縄文・その他の9種類に分類。

「文様」が遺跡毎に限定的になっているか否か、分布状況から推測されること、出土数が多い遺跡周辺の他県の遺跡からの出土状況、時代区分と「形状」「文様」との関係性などが今後の検討課題と考えられる。

◇歴史

(1)「佐竹氏関連資料の調査」 新堀道生
天徳寺、千秋文庫、佐竹史料館に残る佐竹氏関連資料を調査した。既知の資料が大部分であるが、新発見の資料も若干数あった。その他、県立図書館等に所在する歴代当主の書画等について情報を収集した。調査の成果は令和3年度特別展に反映させる。

(2)「館所蔵の城絵図の調査－秋田藩作成の城郭修補願絵図を中心に－」 黒川陽介

守屋家資料の中には約10点の城郭修補願絵図がある。その中から4点の城絵図を取り上げ、『国典類抄』や『御亀鑑』に収録されている関係史料との照合を行ったり、裏面に貼付されている書付に着目することで、幕府へ最終提出された清絵図とどれだけ近い内容が記されているのか考察を加えてみた。調査を通じて、藩内での吟味や幕府による事前審査等を経て、秋田藩が修補願絵図を完成させた過程を垣間見ることができたと感じている。

◇民俗

(1)「中山人形から横手人形へ～昭和初期・人形制作の変遷～」 丸谷仁美

中山人形は三代目樋渡義一が昭和初期に秋田の郷土に根ざした「横手人形」を作り出した。横手人形が誕生したきっかけとして、深澤多市や金沢秀之助の尽力があったことは知られているが、具体的な点について不明な部分があった。今年度は樋渡義一の書簡を中心に、横手人形が誕生した背景について整理を試み、書簡から、深澤多市が所属していた横手郷土史編纂会の会員が横手人形の製造販売について、少なからず関与していることを確認した。

(2)「全国高等学校野球選手権大会における秋田県代表の戦績～秋田県代表は強豪校と対戦するは本当か～」

深浦真人

令和3年度の企画展「秋田野球ものがたり」に向け、秋田県の野球の歴史について調査した。その中から、全国高等学校野球選手権大会（全国中等学校優勝野球大会を含む）における秋田県代表の戦績を調査し、その傾向を分析した。また、秋田県代表と勝率が近似値を示す、佐賀県、長野県、福島県の代表校と比較した。また、気候的条件や抽選条件が同じ富山県代表との比較をした。

◇工芸

(1)「秋田県内におけるケラおよびミノボッチの製作技術」 藤原尚彦

ワラ細工については、履物類を皮切りに調査を始め、現在は対象を被服類へと移し、中でもワラを含め様々な素材で作られているケラの製作技術に焦点を当てた調査を実施している。今年度からはさらにミノボッチについても調査対象に加えることとした。調査に当たっては、県内の各資料館等に収蔵されている資料から技術的な特徴を捉えることとし、今年度は、能代市、北秋田市、藤里町の5施設を調査した。ケラについては特に首回りや裏面のつくり、ミノボッチについては頭部後方部分のつくりなどを中心に現時点での調査内容をまとめることができた。

(2)「秋田県内編組品にみる地域的特徴について―東成瀬村マタタビ細工―」 斉藤洋子

東成瀬村のマタタビ細工について不明な点も多かったため継続調査として現地踏査、聞き取り調査を行った。東成瀬村は谷底平野であるため段丘崖が多く、マタタビが集落内に多く自生する要因となっていた。販路は村内のみで、自家用消費のために細工の得意な者によって技術が引き継がれていた。特にザルの芯は、以前ネマガリダケを用いていたことがわかり、またその資料を発見できたことは幸運であった。東成瀬村のマタタビ細工を知る上で貴重である。

◇生物

(1)「小泉潟の鳥類相」 池端広樹

秋田市金足にある小泉潟公園で観察される野鳥について調査を行った。公園内の男潟や女潟のカモ類はやや増加傾向にあるように思われる。危急種のカンムリカイツブリについては成鳥は以前から確認していたが、今回幼鳥も確認することができた。小泉潟が繁殖地となっている可能性もあり、継続して観察を行っていきたい。

県の調査報告書（2005.3県教育委員会発行）に記載のあったカイツブリやバン、ゴイサギ、コサギについては確認できなかった。報告書に記載のないカワウも複数確認されたことから他の水鳥との餌の競合もあり、群れの動向や個体数の増加についても注視していきたい。

(2)「同定に困難を伴った日本産アリ類の形態的特徴について」 藤中由美

アリはその体の小ささから同定作業には困難を伴う昆

虫である。昨年度小泉潟公園に生息するアリ類について調査を行ったが、中には同定に困難を極めた種もあった。今年度は小泉潟公園で得られたアリ類の再同定に加えて、昨年未採集の4月から6月にかけて同調査地にて採集し同定を行った。同定に困難を伴った日本産アリ類について知り得た形態特徴と小泉潟公園のアリ相について報告した。

◇地質

(1)「男鹿半島鵜ノ崎の小豆岩について」 渡部 均

男鹿半島の鵜ノ崎海岸の波食台上に多く観察され、地元では小豆岩と呼ばれる炭酸塩コンクリーションについて、2015年に小豆岩中に初めて動物の骨化石が発見された。その後の調査により、多くの小豆岩中に鯨類の骨化石が確認され、調査研究は継続している。小豆岩と比較するため、今年度は県内各地の地層中のコンクリーションについて産地確認や収蔵資料の調査、形成メカニズムの考察を行った。それらの一部は企画展「秋田の石ころ」で紹介した。

(2)「秋田県内の石材」 大森 浩

秋田県内にはたくさんの石材があり様々な利用されている。その中から今年度の企画展「秋田の石ころ」で紹介する資料を選ぶため県内の石材について調査した。主に地質研究室で収蔵する昭和30年代からの地質図を基に調査を進めた。今回は金属関連の鉱山はホームページ等にもまとめられているものがあるので、非金属に関してまとめた。この資料から全国と比較し、秋田県の石材の特徴について考察した。また、ゼオライトなどについては、過去の利用について聞き取り等により調査した。

◇秋田の先覚記念室

(1)「伊藤永之介資料について」 三浦たみ子

県出身作家である伊藤永之介に関して、県内の関係資料の所在調査を行った。秋田市立土崎図書館、秋田県立図書館、あきた文学資料館の3館で関係資料を所蔵していることがわかり、各施設の資料の調査を実施した。

その結果、上京後第一作目の小説原稿や、未刊行作品の原稿など、貴重な資料を見出す事ができた。また作品執筆に先んじて関連事項を取材・調査する内容の書簡など、永之介の創作姿勢を示すものとして重要と思われる資料があった。日記、手帳、書簡等の肉筆資料の中には、未だ解説、研究が及んでいないものがあり、今後の調査に期待したい。

◇菅江真澄資料センター

(1)「内田武志資料の整理と展示公開」 松山 修

平成31年(2019)2月、内田ハチが逝去するまで保管していた資料が寄付された。これは、真澄研究に生涯をかけた兄武志の伝記を執筆するため、妹のハチがまとめていたものである(伝記は未完成)。ハチのまとめ方に沿いながら、「第3期内田文庫資料目録」としてリスト化し、企画コーナー展「真澄研究者内田武志の新資料」の中心資料とした。武志の真澄研究とそれに至る民俗学研究について、その概略はこれまで明らかになってきているが、今回の寄付資料で、書簡や武志の論考(コピーを含む)などの実資料を収蔵することができた。

(2)「真澄が記録した八郎潟の別称について」角崎 大

真澄は八郎潟のことをいくつか別の呼称で記録している。真澄の記録に見られる八郎潟の別称について整理し、真澄がそれらの別称を用いた理由について考察した。一例を挙げると、真澄は八郎潟を「琴の湖」と呼んだ。この呼称について真澄は、近江の「琵琶湖」に対して、八郎潟を「琴」と見立てたからではないか、としている。古くから八郎潟が琵琶湖と並ぶほどの大きな湖であったことを人々が認識していたことが窺える。また他に、八郎潟周辺の神社との関連性から「八龍湖」の別称や、鎌倉時代の史書『吾妻鏡』の内容から「大方」の別称でも呼んでいる。これらの別称をあえて用いていたところに「古ぶり」や「雅さ」といったものに対する文人・菅江真澄のこだわりを垣間見たような気がする。

◇博物館学的研究

(1)「博物館の資料収蔵などの実態調査と改善点」

山本文志

収蔵美術品の悉皆調査を続けている過程で、施設の老朽化により館内の収蔵環境が良好でないと感じていた。他に収蔵庫以外にも資料が保管され、カビ、害虫の発生が危惧される状況は早急に改善しなければならない重要問題である。現状を見ると博物館機能の重責を担う、展示・収蔵の機能は他館に比べて低下している。建物の老朽化による物理的な欠陥は一朝一夕に解決することはできないので、職員による人的な対応、意識改革である程度防ぐことができるのではないかと考え、問題点を提起した。

(2)「携帯端末用展示情報提供システムの構築」

山田徳道

展示資料の説明は、来館者の知識や意欲、状況に合ったものを提供できることが目標である。当該システムはWebで展示資料の専門的で詳細な情報、参考文献、外国語等のコンテンツを提供する。広く普及している携帯端末を利用することで、来館者が興味のある部分や自分の属性に適した情報を選択できるようにすれば、展示企画者の意図を反映させやすくなるとともに、学習を効率よく行えるようになると思う。

調査研究報告会

◇館内調査研究報告会

標記の会を令和3年1月25日(月)に当館大会議室で開催した。報告内容は次のとおりである(報告順)。

- 1 秋田県内の遺跡から出土した縄文時代の土製耳飾 安田ゆきこ
- 2 携帯端末用展示情報提供システムの構築 山田徳道
- 3 中山人形から横手人形へ～昭和初期・人形制作の変遷～ 丸谷仁美
- 4 小泉潟の鳥類相 池端広樹
- 5 博物館の資料収蔵などの実態調査と改善点 山本文志
- 6 全国高等学校野球選手権大会における秋田県代表の戦績～秋田県代表は強豪校と対戦するは本当か～ 深浦真人

- 7 種の同定に困難を伴った日本産アリ類の形態的特徴 藤中由美
- 8 秋田県内編組品にみる地域的特徴について～東成瀬村マタタビ細工～ 斉藤洋子
- 9 秋田県の石材 大森 浩
- 10 真澄が記録した八郎潟の別称について 角崎 大
- 11 秋田県内におけるケラおよびミノボッチの製作技術 藤原尚彦
- 12 男鹿半島鵜ノ崎の小豆岩について 渡部 均
- 13 秋田県内出土の块状耳飾について 加藤 竜
- 14 館所蔵の城絵図の調査－秋田藩作成の城郭修補願絵図を中心に－ 黒川陽介
- 15 伊藤永之介関係資料について 三浦たみ子
- 16 内田武志資料の整理と展示公開 松山 修

17 土崎湊小宿の商品流通における機能 - 松本家の経営史料から - 新堀道生

◇調査研究報告会(公開報告会)
標記の会を令和3年3月14日(日)に生涯学習センター3階講堂にて開催予定であったが、新型コロナウイルス感染予防のため、中止となった。報告の概要を当館HPに掲載した。掲載期間は令和3年4月30日(金)まで。

研究報告等の発行

◇『研究報告』第46号
・秋田県初記録のアカギカメムシ 藤中由美
・秋田県立小泉潟公園のアリ相 藤中由美
・収蔵庫に保管された未整理植物化石の同定について 五井昭一・渡部 均
・名誉館長館話実施報告抄 新野直吉
・〔翻刻〕茂木久栄家資料「日記帳」(慶応三年) 新堀道生・秋田古文書同好会

◇『真澄研究』第25号
・菅江真澄『わがこころ』再考 石井正己
・真澄さんから学ぶアイヌの文化～『蝦夷喧辞辯』にみる「理氏武者」考 佐々木利和
・現代語訳《ふでのまにまに》第一巻 嵯峨彩子
・第3期内田文庫資料目録

2 資料収集管理活動

令和2年度中に寄付等で新たに登録された資料は22件682点であった。中でも、県指定文化財の刀(工芸)と大木式縄文土器(考古)は、長年、当館で寄託を受けていた資料が寄贈となったものである。
収蔵庫内の一部床面に黒カビらしい汚れが認められ

ており、今年度も継続して清掃作業を行った。結露に起因するものと推測されるため、定期的に拭き取り・アルコール殺菌を行った。植物標本に関しては念のため、被覆燻蒸を実施した。薬剤はエキヒュームS(酸化エチレン)を使用した。

資料収集・整理・保存・管理

◇令和2年度収集資料一覧

部門	資 料 名	数量	受入区分
工芸	刀 天野河内助藤原高眞	1	寄付
	片切彫壁掛	2	寄付
歴史	満鉄設立20周年記念灰皿	1	寄付
	秋田藩札 他	15	寄付
	茶道具	100	寄付
考古	大木式縄文土器	1	寄付
民俗	子ども用ソリ	1	寄付
	深澤家資料	1	寄付
	こけし	1	寄付
	黒紋付 他	4	寄付
	イリノ自動米選機	1	寄付
生物	昆虫標本	7	寄付

部門	資 料 名	数量	受入区分
生物	アカヒアリ 他	65	寄付
	ゴキブリヤセバチ	4	採集
地質	化石標本	267	寄付
	木の葉石	1	寄付
	かんらん岩、貝化石	4	寄付
	ナウマンゾウの化石 他	5	寄付
先覚	植物化石	130	採集
	多田等観資料 他	69	寄付
真澄	石井露月短冊	1	寄付
	深澤多市関連資料	1	寄付
合計(件数)		682	(22)

◇令和２年度資料収集状況

令和３年３月末日現在の資料総数（ ）は令和２年度分

	購入	寄付	委託製作	所管換え	採集	その他	合計
総集	2,917	198	626	18	0	0	3,759(0)
美術	415	25	2	8	0	0	450(0)
工芸	7,371	6,330(3)	1	13	0	0	13,715(3)
歴史	5,125	3,666(116)	113	184	0	73	9,161(116)
考古	245	2,175(1)	31	190	0	0	2,641(1)
民俗	2,280	8,101(8)	120	36	4	0	10,541(8)
生物	17,345	99,023(72)	7,736	36	1,658(4)	0	125,798(76)
地質	3,556	3,241(277)	1,408	18	9,282(130)	0	17,505(407)
先覚	131	5,427(70)	12	0	0	2	5,572(70)
真澄	143	1,779(1)	11	300	0	0	2,233(1)
合計	39,528(0)	129,965(548)	10,060(0)	803(0)	10,944(134)	75(0)	191,375(682)

◇令和２年度館蔵資料貸出状況

貸出先		県内外別			目的別				
		県内	県外	計	展示	研究	教材	資料	計
博物館等		7		7	7				7
教育機関	大学	3		3		3			3
	高等学校								0
	中学校								0
	小学校								0
	その他								0
研究所・文化団体									0
出版報道機関		1		1	1				1
都道府県			1	1	1				1
市町村		6		6	5			1	6
個人									0
その他									0
計		17	1	18	14	3	0	1	18

◇令和２年度資料特別利用状況

目的別

利用者		県内外別			目的別						
		県内	県外	計	出版物	映像	広報・HP	市町村誌	展示資料	研究資料	その他
博物館	都道府県立	1	2	3	1	0	0	0	2	0	0
	市町村立	3	2	5	1	0	0	0	4	0	0
	その他	1	1	2	0	0	0	0	1	1	0
企業	出版	9	57	66	62	1	1	0	0	1	0
	映像	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0
	T V	5	2	7	0	7	0	0	0	0	0
	その他	1	4	5	0	0	0	0	2	2	1
教育機関	大学	2	1	3	1	1	0	0	0	1	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国都道府県		15	3	18	0	0	12	0	6	0	0
市町村		4	2	6	1	0	1	0	4	0	0
個人		15	6	21	13	1	2	0	1	4	0
計		57	80	137	79	10	16	0	21	9	1

部門別

部門	利用数	利用内容						
		写真撮影	写真掲載	画像等貸与	映像録画	館内閲覧	画像転載	その他
工芸	6	1	6	3	0	0	2	0
考古	19	3	17	10	0	0	6	0
歴史	42	1	42	5	0	0	35	0
民俗	8	1	7	3	2	0	3	0
生物	4	3	4	2	0	0	1	0
地質	1	0	0	0	0	1	0	0
先覚	20	0	20	4	0	0	16	0
真澄	37	0	33	26	2	1	13	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0
計	137	9	129	53	4	2	76	0

※利用内容は重複があるので実際の利用数より多い。
※一度の申請に複数の部門が関わっていることがあるため、利用数の合計と利用者数の合計とが異なっている。

データベース化の推進

平成24年度以来の「デジタルアーカイブ&アプリケーション開発事業」では携帯端末の専用アプリによる画像閲覧を提供してきたが、OSのアップデートへの対応やサーバ使用料などの経費が出せず、打ち切りとなった。

今後は秋田県立図書館のデジタルアーカイブで提供されている同様のコンテンツだけとなる。

今後はこの事業とは別に、収蔵資料情報の整備が中心的課題となる。

燻蒸消毒および虫・害菌管理

燻蒸消毒は令和２年８月23日(月)～８月30日(日)、アルプ(酸化プロピレン)を使用し、３階収蔵庫のうち歴史・工芸・寄託収蔵庫と、先覚収蔵庫を燻蒸した。秋博協加盟館から受け入れた燻蒸資料も同時に燻蒸した。ま

た、令和３年１月18日(月)～22日(金)、大会議室で植物標本の包み込み燻蒸(被覆燻蒸)を実施した。薬剤はエキヒュームS(酸化エチレン)を使用した。

3 展示活動

令和2年度はコロナウイルスの感染拡大を受け、いろいろな制約がある中で開催した。

企画展「重要文化財『菅江真澄遊覧記』の公開」は会期前半を休館することになったため、展示資料、展示室動画をHPで配信した。緊急事態宣言の発令によって、県内県外での資料の集荷ができなくなった企画展「蓑虫

山人－秋田を歩いた漂泊画人－」は規模縮小、特別展「美の極致 縄文と江戸」は中止となった。特別展は企画展「継承逸品」に変更し、館内資料の名品を集め公開した。丁寧な調査研究の成果として行われた企画展「秋田の石ころ」はどうか当初の予定通り開展した。

企画展ほか

◇企画展「重要文化財『菅江真澄遊覧記』の公開～菅江真澄資料センター開設25年記念～」

令和2年4月25日(土)～6月21日(日)

【新型コロナウイルス感染防止のために閉館したことから、5月12日(火)、第2期からの开展となった。】

＜展示概要＞

重要文化財「菅江真澄遊覧記」89冊(77冊12帖)は、文政5年(1822)12月、菅江真澄が秋田藩校明德館に納めた著作を中心に構成されている。同資料は、江戸時代後期における郷土の歴史や文化、自然を知る手がかりとして、特に秋田では、長年、郷土史研究の中心に位置づけられてきた。まさに珠玉の文化遺産である。今年度が菅江真澄資料センターの開設25年にあたることから、当館寄託資料である「菅江真澄遊覧記」を企画展示室の全面を使って全冊展示し、4期に分けてのべ356図を紹介することにした。

＜展示構成＞

序章 菅江真澄とは

第1章 真澄の記録と重要文化財

第2章 旅の見聞を記録する(日記39冊)

第3章 名どころを描く(勝地臨毫12冊)

第4章 地域を調査する(地誌38冊)

第5章 25年目の菅江真澄資料センター

＜展示の特徴(当初計画と実際)＞

○図絵356図を4期に分けて詳細に解説(→解説で指摘している箇所が小さいなどでわかりにくい場合、図絵の部分的な拡大や地名を明示した補助パネル[各期20箇所ほど]を設置した。)

○「菅江真澄遊覧記」を18の視点から解説(→开展後、来館者の要望を受けて、解説資料「菅江真澄遊覧記を知る18の視点」[館内印刷、8頁]を配布した。)

○図絵と現在の風景を対比したビデオを上映

○「菅江真澄遊覧記」全頁をパソコンで公開(→取り止めた。閲覧用パソコンは常設展にあるため、新型コロナウイルス収束後に利用できる。)

○展示内容を紹介する解説資料を配布(→カラー印刷の解説資料[12頁]を無料配布したほか、解説文の文字データ・開帖予定・カラー版解説資料を、PDF形式でホームページに6月末日まで掲示した。)

○重要文化財を多角的に知るための関連事業の開催(→講演会・博物館教室・ビデオ上映会・展示解説会の関連事業はすべて中止とした。)(→来館できない方のために、展示内容を紹介する動画[4分間]を作成し、6月末日までホームページで配信した。)



展示の実際(第2期)

『浦の笛滝』(重要文化財『菅江真澄遊覧記』の一冊)

担当：松山 修・角崎 大(真澄)

◇企画展「蓑虫山人―秋田を歩いた漂泊画人―」 令和2年7月11日(土)～8月23日(日)

＜展示概要＞

当館で所蔵する『蓑虫山人画記行』には、明治期の秋田の風景や民俗のほか考古資料が数多く描かれ、特に当館所蔵の人面付環状注口土器および佐藤初太郎旧蔵考古資料が掲載されていることの意義は大きい。蓑虫山人の作品を通して、考古学黎明期の秋田における資料の蓄積状況や収集家同士のつながりを示すことに主眼におき、没後120年という節目の年に合わせ展示を計画した。

本展は当初、秋田県内の個人宅や寺社等に残された作品とゆかりの品も借用し展示する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響からこれを断念し、当館所蔵品を中心とした展示構成に変更した。

＜展示構成と展示資料＞

第一章 蓑虫山人とは

蓑虫山人の経歴・身なり・特技・秋田県内の足跡等について、パネルで解説した。特に秋田県内の足跡については、明治20年代の複数回に及ぶ旅の経路を年代ごとに色分けして地図に落とし、可視化に努めた。

第二章 蓑虫山人画記行の世界

当館所蔵の『蓑虫山人画記行』のうち、秋田を描いた60点を全て掲載順に展示した。本作品に掲載された当館所蔵の考古資料を近くに並べ、表現方法の特徴等について重点的に解説を加えた。

『蓑虫山人画記行』秋田分・同箱裏書き・同表紙・秋田県立図書館移管資料のうち佐藤初太郎旧蔵考古資料・人面付環状注口土器（全て当館蔵）

第三章 残された作品

多種多様な作画モチーフの一端を示すものとして、当館所蔵の作品を中心に展示した。

大谷派本願寺之図(個人蔵)、養老瀑布之図・富士と案山子図・月次図屏風(当館蔵)



担当：加藤 竜（考古部門）

◇企画展「継承逸品（うけつがれしぶんかざい）―秋田県立博物館収蔵名品展―」

令和2年9月19日(土)～11月1日(日)

＜展示概要＞

本年度の秋田県立博物館特別展「美の極致―縄文と江戸―」は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う移動自粛により、全国から借用予定資料の事前調査や搬送準備が想定通り進まず、万全の体制での開催が難しいことから中止することとした。

本展は、中止となった特別展の代替展として、当館が所蔵する秋田県指定文化財をはじめとした、長く継承されて続けてきた逸品を、歴史、民俗、工芸の3部門から公開した。

＜展示構成と主な資料＞

歴史部門

男鹿図屏風（秋田県指定有形文化財）、慶長一分金、久保田城下絵図（秋田県指定有形文化財）、黒塗八角螺鈿食籠、平田篤胤竹画賛（秋田県指定有形文化財）、平田篤胤和魂漢才（秋田県指定有形文化財）



男鹿図屏風（右隻）秋田県指定有形文化財

民俗部門

柚子造材之畫(秋田県指定有形文化財)、羽州秋田風俗問状答之図、三十六歌仙図色紙貼交屏風

工芸部門

秋田家資料のうち一ノ谷兜(秋田県指定有形文化財)、鐔 あやめ図透彫(秋田県指定有形文化財)、鐔 壇溪図(秋田県指定有形文化財)、春慶塗、川連塗、白岩焼、紫根染、茜染、秋田八丈



秋田家資料のうち
一ノ谷兜
(秋田県指定有形文化財)

担当：館長 高橋 正

◇企画展「秋田の石ころ」 令和2年11月21日(土)～令和3年4月4日(日)

<展示概要>

秋田の大地は、日本海の形成に伴う地殻変動や火山活動によって形成され、多様な岩石によってつくられている。展示では、身のまわりで見つけられる石について、さまざまな切り口からその面白さを紹介し、秋田の大地の生い立ち、石と人のつながりに興味を持ってもらえるような展示を目指した。

また、秋田にはジオパークとして認定された地域が4カ所あることから、秋田県ジオパーク連絡協議会の協力で、それぞれのジオパークの岩石・化石や見どころ等の紹介も行った。

<展示構成>

プロローグ

男鹿半島脇本海岸で採集した多数の黒曜石を透過光で観察できるようにし、展示への興味付けをはかった。

第1章 石が語る秋田の大地

県内の海岸や川原で拾った石を展示し、それらがどこから来たのか、どのようにしてできたのかを紹介し、秋田の大地の生い立ちと関連付けた。

第2章 石との出会い

石と人のつながりをテーマにした3部構成とした。

「縄文人と石」縄文人が利用した多様な石器の紹介。

「旅する石」黒曜石やヒスイ、アオトラ石、笏谷石や赤みかげ石など、県外との石の流通を紹介。

「秋田の石材」県内の様々な石材とその利用について紹介。

トピック 県の石

秋田県の「県の石」に指定された、硬質泥岩、黒鉱、ナウマンヤマモモ化石を展示した。

第3章 石の中から

石をつくる鉱物、石に含まれる化石など、テーマをしぼって紹介した。化石については、地層中の丸い団塊(コンクリーション)や、菅江真澄の記録にもある木の葉石などを展示した。



第4章 石と遊ぼう

男鹿半島・大潟、八峰白神、ゆざわ、鳥海山・飛島の4つのジオパークについて、特徴的な石や見どころなどの紹介を行った。

エピローグ 石との遭遇

秋田で発見された3つの隕石とそのエピソードを紹介し、来館者の石との出会いに期待を込めるエピローグとした。

<付帯事業>

新型コロナウイルスの感染防止のため、付帯事業は実施できなかった。

担当：渡部 均・大森 浩(地質)

◇菅江真澄資料センター 企画コーナー展

〔第82回企画コーナー展〕

真澄酒物語 ―真澄と酒を巡る話―

令和2年7月18日(土)～9月6日(日)

各地を歩き、人々の生活をつぶさに観察した真澄の記録の中には、酒にまつわるものがいくつか含まれている。酒は人類の歴史上、古くから存在が確認され、時に自然を司る神々への捧げ物として、時に円滑なコミュニケーションを図るための媒体として、その価値を見い出されてきた。当然、人と酒の関係は深く、生活の中のあらゆる場面において、酒はいつも人のすぐそばにあった。展示では、江戸時代後期における人々の酒との関わり方や、土地土地に残された酒にまつわるエピソードなどを、真澄の視点を通して紹介した。来館者には、真澄が記録した酒にまつわる様々な「物語」を楽しんでもらうことができた。

＜展示構成＞1. 酒を供える（秋田の地に残る古さまの神事）、2. 酒を楽しむ（地元の人に愛された祝い唄）、3. 酒の名は（真澄が名付けた酒）、4. 酒に飲まれる（真澄が見た酔っ払いの姿）、5. 酒を商う（酒の看板の話）

担当：角崎 大（真澄）

〔第83回企画コーナー展〕

真澄研究者内田武志の新資料

令和2年10月17日(土)～12月6日(日)

当館では、菅江真澄研究に大きな足跡を残した内田武志（1909～80）の資料を、「内田文庫」として収蔵している。内田文庫は、菅江真澄資料センター開設を機に武志の妹・内田ハチから寄贈された資料（第1期）と、その後、武志・ハチの関係者から断続的に寄贈された資料（第2期、第3期）からなる。本展示で紹介した資料は、ハチが逝去するまでまとめていた資料（第3期）で、16個のケースファイル（整理後20ファイル）からなる。平成31年（2019）2月の寄贈で、「内田文庫」としては最後の

受け入れとなる資料と考えられる。展示では、武志の研究生活（民俗学研究と菅江真澄研究）を5期（下記①～⑤）に分けた上で、武志の年譜で概観しながら、当館にとって新収蔵となる資料を中心に紹介した。

＜展示構成＞①静岡・東京時代―武志の民俗学研究―（昭和5年～昭和17年）、②秋田での真澄研究（昭和20年～昭和29年）、③盲教育への関わり（昭和27年～昭和36年）、④真澄研究再開と現代語訳の出版（昭和36年～昭和46年）、⑤全集の出版と武志の死（昭和43年～昭和55年）

担当：松山 修（真澄）

〔第84回企画コーナー展〕

おらほの真澄 ―能代・山本―

令和3年3月20日(土)～5月16日(日)

当センターではこれまでも県内の特定地域に焦点を当てた企画展示を行い、真澄が私たちの秋田県をどのように記録したかについて紹介してきた。今回は「おらほの真澄―能代・山本―」と題し、同地域に焦点を当てた。能代・山本地域とは、県の北西部に位置する1市3町（能代市・藤里町・三種町・八峰町）を指す。真澄は、弘前藩領から秋田藩領に戻った享和元年（1801）から、文化7年（1810）頃までの9年間、複数回に亘って同地域を訪れ、様々な記録を残している。同地域に関する記録が残された日記は全部で9冊あり、風景、名所旧跡、土地の名産や人々の暮らしぶりなど、内容も多岐に渡る。展示では各日記ごとの真澄の足跡をルート図で示しながら、それぞれの地域にまつわる内容を抽出して紹介した。

＜展示構成＞1. 真澄の足跡ルート図：①1801～1804・『雪の道奥雪の出羽路』、『しげき山本』、『男鹿の秋風』②1805～1806・『みかべのよろい』、『かすむ月星』、『浦の笛滝』③1809～1810・『おがらの滝』、『氷魚の村君』、『男鹿の春風』2. 真澄図絵で見る能代・山本の勝景

担当：角崎 大（真澄）

◇秋田の先覚記念室企画コーナー展「農民文学の作家 伊藤永之介」 令和2年9月26日(土)～11月29日(日)

＜展示概要＞

秋田市出身の伊藤永之介は、当時の秋田の農村を題材にして作品を創作し、農民文学の第一人者とされた作家である。

展示に際しては、伊藤の業績や主要な作品の紹介とともに、伊藤と秋田との関わりを示すことを重視し、伊藤が県内に在住していた頃の日記、手帳、書簡等を紹介し

た。また、作品と、その作品に関わる取材記録や書簡とともに展示することで、伊藤の作家としての姿勢を紹介した。その他、映像化作品関係資料、永之介の日用品等、合わせて約60点の資料を展示した。

本展の開催にあたっては、秋田市立土崎図書館、秋田県立図書館、あきた文学資料館に御協力いただいた。

<展示構成>

- 1 生い立ち
- 2 上京ー作家生活のはじまり
- 3 昭和の大作から農民文学へー鳥類物
- 4 戦時中ー横手での暮らし
- 5 戦後の伊藤永之介
- 6 人気作「警察日記」
- 7 晩年の伊藤永之介

<付帯事業>

秋田の先覚記念室講演会「伊藤永之介と八郎潟」

11月1日(日)14:00~15:30

講師：高橋秀晴氏（秋田県立大学総合科学教育研究センター教授）

コロナ禍の状況下にもかかわらず、26名の方に御参加いただいた。

担当：三浦たみ子（先覚）



◇可変展示

〔自然展示室〕

自然展示室の可変展示コーナーでは令和2年4月1日（水）～令和3年3月3日（水）まで「あっ！ハチ!!野山のキケンな生物～ハチ編～」を展示した。人に刺症被害を起こす可能性がある危険なハチと無害なハチとの違いについてハチの習性と針の機能の違いから紹介した。また、オオスズメバチの巣をはじめとした社会性ハチの巣を紹介した。

担当：藤中由美（生物）



令和3年3月5日からは「肋（ろく）で見分ける貝化石」を展示した。秋田県産の貝化石のうち、貝殻表面にはっきりしたスジ（肋）が観察されるものを展示し、二枚貝のホタテガイ類、サルボウガイ類は放射肋を、巻貝のキリガイダマシ類は螺肋をじっくり観察することで、種類を区別できることなどを紹介し、化石に興味を持ってもらう展示とした。

担当：渡部 均（地質）

〔ふるさとまつり広場〕

今年度は民俗部門が季節ごとの祭りや行事についての展示を行った。ただし、4月の非常事態宣言を受け、休館していたため、当初の土人形の展示は中止となった。

－令和2年度の展示－

土人形	4月17日(金)～5月12日(火) ※全館休館のため中止
鹿島船	5月22日(金)～6月23日(火)
涼を求めて	7月3日(金)～9月4日(金)
ショウキサマ	10月2日(金)～11月17日(火)
正月儀礼	12月4日(金)～1月13日(水)
ひな人形・押絵	2月19日(金)～4月6日(火)

担当：深浦真人・丸谷仁美（民俗）

◇出張展示、他施設との連携展示

- ①「明治の広告デザイン くせになる引札の魅力」
(秋田県立図書館)
令和2年4月4日(月)～5月26日(火)
※コロナ感染拡大を受けて、4月15日(水)から
5月11日(月)まで閉室。
観覧者数：2,036名

- ②「真崎コレクション展」(大館市立栗盛記念図書館)
令和2年10月31日(土)～11月8日(日)
観覧者数：55名
- ③「秋田の風・日本の風・世界の風」
(仙北市立角館樺細工伝承館)
令和2年11月7日(土)～令和3年1月26日(火)
観覧者数：11,758名

▶ 展示室の保守管理状況

展示室の温湿度の測定、照明・映像・音響機器などの点検を実施し、不具合がある場合はその都度対応した。リニューアル時に設置した映像・音響機器の劣化が進行している。コロナウイルスの感染症拡大に対応し、検温

装置、消毒用具、遮蔽アクリル板などを導入した。展示室のガラス損壊、漏水など経年劣化によると思われる不具合が発生しており、注意を要する。

▶ 解説案内サービス業務

日常業務については、研修、勤務割作成、月例会運営、情報資料収集、団体関係、Q&Aをそれぞれ分担により実施した。コロナ流行時の解説業務について、情報を収集し臨機に対応した。例年行っている解説

員館外研修は中止した。解説員冬季研修では解説シナリオの作成、学芸主事によるアドバイス、解説実演を実施し、技能向上を図った。

▶ 分館（旧奈良家住宅）

主屋(重要文化財)を令和2年4月1日から令和3年3月31日まで公開した。また附属屋(登録有形文化財)も外観のみ同期間公開した。今年度はコロナの影響で、

積極的に展示解説を行わなかったが、9月30日は秋田市金足黒川にある三浦館（重要文化財）の見学とあわせ、学芸職員が母屋および附属屋の解説を行った。

4 教育普及活動

館内及び館外講座については、出前授業が昨年に比べ増加したものの、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い博物館教室(名誉館長館話含む)の参加者数は436名(令和元年度1,232名)、館外講座全体(出張講座等)の参加者数は1,365名(令和元年度1,404名)と普及活動は昨年に比べ減少した。ミュージアムトークについても今年度は感染対策のため年間を通じて実施を見送った。

イベントは、例年4月下旬にボランティア「アイリスの会」の協力を得て分館で実施している「軒の山吹」再現と、3月下旬にミュージアムコンサート「J A Z Zで巡る世界の旅」を予定していたが、ともに新型コロナウイルス感染症対策に伴い中止とした。

博物館等類似施設との連携では、秋田県博物館等連絡協議会加盟館の燻蒸サービスは例年通り実施したが、役

員会、総会は書面会議で、実務担当者研修会はオンライン会議で行った。秋田市内文化施設連絡会議(みるかネット)の事業であるイベント通信は予定通り発行したもののギャラリートークセッションは新型コロナウイルス感染症対策のため中止となった。

「友の会」とボランティア「アイリスの会」については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から年度当初より活動を自粛していたが、各部門に係るボランティア活動等については7月以降対策を講じながら徐々に再開している。

また、大学生の博物館実習では、当館を会場としての実習のほか、体調管理に伴う事前の県内滞在が困難な学生に対しては課題の提出によって対応した。

普及事業

◇館内講座

平成30年度より、博物館教室をはじめ館内で行われる普及活動全般について、普及・広報班が取りまとめて把握する形としている。内訳は以下のとおり。

①博物館教室	42回	436名
②イベント等	0回	0名
③展示付帯事業等	0回	0名
④ミュージアムトーク	0回	0名

①博物館教室の内訳は別表のとおり。新型コロナウイルス感染症対策に伴い6月までの教室は全て中止となり、その後も中止となった教室があったため、回数・受講者数ともに大きく減少した。実施した教室に関しても、感染対策のため、定員の削減や実施日の変更等の措置を取ることがあった。②～④の他の館内講座についても、同様の事情により年間を通して開催を見送ることとなった。

	教室名	回数	人数
1	化石と地層の観察会		
2	昆虫教室～採集と標本づくり～		
3	夜の昆虫観察会		
4	くん製教室 初級編		
5	アリの観察会～観察して採集して種類を調べてみよう！～	1	10
6	「真澄に学ぶ教室」講話会～真澄展覧会、18の視点を聞く～		
7	初めての古文書解読		
8	中学生・高校生対象 史料で学ぶ秋田の歴史	2	7
9	「真澄に学ぶ教室」講話会～県外の日記を読む～	14	174
10	土器作り教室	2	22
11	三浦館・旧奈良家住宅合同見学会	1	6
12	地域回想法～60年前の秋田、脳を若く保つには～	1	9
13	旧奈良家住宅で昔語り		
14	拓本体験教室	1	3
15	土製耳かざり作り	2	8
16	和装本を造ろう	1	7
17	秋田の先覚者	1	3
18	民俗学入門講座	2	24
19	初めての藍の絞り染め		
20	糸をつむぐ		
21	木工芸 木のオブジェづくり	1	11
22	ゼロからはじめるワラ仕事	2	16
23	木工芸 Christmas Ornament	1	9
24	ミニコダシを編む～男鹿に伝わるトジナの技術～	1	13
25	未来の学芸員養成講座	3	6
26	「真澄に学ぶ教室」講話会		
27	「真澄に学ぶ教室」講演会		
28	秋田の先覚記念室講演会	1	23
	合 計	37	351

※ 斜線は中止となった教室

	名誉館長館話	回数	人数
前期	鳥海山	1	14
後期	鳥海山 / 秋田の先覚	2	71
	合 計	5	85

◇名誉館長館話

今年度の名誉館長館話は以下のテーマで行われた。

- ・前期『鳥海山』
 - ①7月10日(金)「鳥海山と海みち」
- ・後期『鳥海山』・『秋田の先覚』
 - ②9月4日(金)「鳥海山の信仰史」
 - ③10月2日(金)「イザベラ・バード」

新型コロナウイルスの影響で、5～6月に予定していた館話が中止となり、その関係でテーマや構成を一部変更して実施する運びとなった。受講生は合わせて85名であったが、中でも最終回の「イザベラ・バード」には51名と多くの受講生が集まった。

◇イベント等

- ・『軒の山吹』再現

例年4月下旬に博物館ボランティア「アイリスの会」会員の協力により、江戸時代の紀行家菅江真澄の図絵に描かれた風習を分館旧奈良家住宅に再現していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から今年度は中止とした。

- ・ミュージアムコンサート『早川泰子の“J A Z Zで巡る世界の旅”』

進駐軍のピアノを使用した恒例のコンサートを3月下旬に開催する予定であったが、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、出演者の準備期間を考慮して早めの中止判断をした。

◇ミュージアムトーク

例年、来館者に対するミュージアムトークを学芸職員が計画し、常設展示や特別展・企画展等に関する解説を行っていた。しかし今年度は新型コロナウイルスの感染対策のため、展示室での対面による解説が困難な状況と

なり、年間を通じて開催を見送ることとなった。昨年度は特別展・企画展の付帯事業としてミュージアムトークを実施することが多く、担当職員からの解説に熱心に耳を傾けながら興味深く展示を見学していた来館者も多かっただけに、その機会を設けることができなかったのは大変残念なことであった。

来年度以降は今後の状況次第となるが、開催可能な条件が整えば、感染対策に配慮しながら実施していきたい。

◇館外講座

平成29年度より、県庁出前講座を含めて館外で行われる普及活動を、普及・広報班が取りまとめて把握する形としている。全体で29回、1,365名の受講者であった(前年度より2回増、39名の減)。

講座の回数および受講者数は全体に均すとほぼ横ばいであるが、講座の種類によって増減が生じている。出前講座では予定していた講座2件がキャンセルとなったほか、出前講座・出張講座ともに1回あたりの参加者数が減少した。新型コロナウイルス感染拡大の影響が推測される。一方、出前授業は大きく増加した。それぞれの内訳は以下のとおり。

- ①出前講座 7回 163名(前年度7回227名)
- ②出張講座 5回 253名(前年度13回749名)
- ③出前授業 17回 949名(前年度5回218名)
- ④連携講座 0回 0名(前年度2回210名)
- ⑤その他 0回 0名(前年度0回 0名)

なお、①県庁出前講座の内訳は次のとおり。

- ・博物館の魅力について 1回
- ・博物館資料から考える秋田の原始・古代 1回
- ・秋田のくらし・行事 5回
- ・秋田県の生きもの 0回

▶ 他施設・他団体との連携

◇秋田県博物館等連絡協議会(略称：秋博協)

(1) 役員会、総会

新型コロナウイルス感染予防の観点から、書面会議により実施した。5月下旬に資料を加盟館に発送し、質問・意見について6月下旬に事務局から回答を送付した。

(2) 実務担当者研修会

2月25日(木)

新型コロナウイルス感染予防の観点から、オンライン会議システム(Zoom)を利用して実施した。22館

43名が参加した。

講師：半田 昌之 氏(日本博物館協会 専務理事)

講演：「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」の理念と具体的実践例について

(3) 燻蒸消毒サービス 8月24日(月)～31日(月)

鹿角市先人顕彰館、潟上市郷土文化保存伝習館、秋田市立千秋美術館、由利本荘市矢島郷土文化保存伝習施設、花火伝統文化継承資料館、美郷町学友館、

後三年合戦金沢資料館、雄物川郷土資料館の8館が利用した。

- (4) 秋博協ホームページ「あきた文化的施設案内処」各加盟館が掲載内容を随時更新した。
- (5) 会報の発行『秋博協だより』第55号
600部を令和3年3月に刊行し、加盟館に配布した。
加盟館数：53館（令和3年3月31日現在）

◇博物館「友の会」

(1) 役員会・総会

新型コロナウイルス感染対策のため、開催せず。
役員の意見を書面やメールなどで集約して総会資料を作成し、11月中旬に会員へ発送した。

(2) 各種研修会

「情勢を見ながら随時検討」という方針であったが、新型コロナウイルス終息の見通しが立たず、今年度は実施されなかった。

(3) 各ボランティアによる活動

新型コロナウイルスの影響で年度当初は活動を中止していたが、6月より順次活動を再開した。

- ・古文書整理ボランティア(10名) 隔週水曜日活動
- ・秋田古文書同好会(18名) 第三金曜日活動
- ・植物標本ボランティア(12名) 毎週火曜日活動
- ・考古ボランティア(12名) 隔週土曜日活動
- ・地質ボランティア(2名) 随時活動

(4) 友の会だより

- ・第50号（3月刊行、A4判両面カラー250部）

(5) 印刷物等配布 4回（総会中止の連絡を含む）

5月13日、10月14日、11月17日、3月31日
会員数：144名（令和3年3月31日現在）

◇博物館ボランティア「アイリスの会」

博物館ボランティア「アイリスの会」は、お話・織・図書・藁・藍の5チーム編成で活動に取り組んでいる。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、活動を大幅に削減、また感染防止対策に配慮しながらの活動となった。

お話チームは、例年行っているわくわくたんけん室での「おはなし会」を、わくわくたんけん室が閉室したため実施せず、名誉館長館話の受付など来館者へのサポートのみ活動した。

織チームは、例年わくわくたんけん室での「裂き織り体験」の補助を行っていたが、今年度は実施していない。
図書チームは、例年図書資料の整理（考古図書も含む）活動、会員通信「時計」の編集・発行、館内壁新聞の編集・掲示、各種研修の企画・運営を行っているが、今年度は活動していない。

藁チームは、ワラ細工の製作技術研修を2回実施し、博物館教室のワラ細工体験を支援した。

藍チームは、絞り染めの製作技術研修を1回実施した。
例年わくわくたんけん室でのタタミ染め体験や、セカンドスクールで来館した高校生への絞り染めの支援を行っていたが、今年度は活動していない。

全チームによる取り組みとしては、例年「軒の山吹」再現への支援、館外研修などを実施していたが、今年度は実施していない。

会員数：38名（令和3年3月31日現在）

◇その他団体（みるかネットなど）

秋田市内文化施設連絡会議(みるかネット)によるギャラリートークセッションや連携講座等の事業に例年当館も参加しているが、今年度は新型コロナウイルスの影響により中止となった。同会議によるイベント通信は予定通り発行した。

博物館における実習・研修

◇博物館実習

令和2年度の博物館実務実習は、9月3日～4日、9月8日～11日までの6日間で、昭和女子大学、東北芸術工科大学、札幌大学、東京学芸大学、新潟大学、秋田公立美術大学の計6名の実習生を対象にして実施した。

コロナウイルスの感染拡大予防の観点から、実務実習を受講する学生には、実習開始日の2週間前からの秋田県入りを依頼した。しかし、秋田入りが困難な学生が3

名おり、その学生に対しては、課題を送り対応した。博物館で実務実習をした3名は、講義形式で博物館に関する事を学ぶものと、体験実習形式で、資料を取り扱ったり、博物館の事業や業務を体験する実務的なものの二つに分けて行った。

◇中堅教諭等資質向上研修

栗田支援学校と秋田西高等学校から教諭2名が当館の

研修を選択した。日程は8月4日(火)～8月6日(木)の3日間であった。

研修内容は、1日目が「教員のための博物館の日」に参加しての、各展示室及び分館の見学、たたみ染めや模擬セカンドスクールの体験活動等、2日目が各班長から

班の業務に関する研修、3日目が各部門の業務体験や研修(地質・工芸・歴史・民俗・考古)である。

博物館での研修で得られた経験が、今後の職場で活かされることを願っている。

博物館活動の記録・整理

◇博物館活動の記録・整理

博物館活動については、令和2年4月から令和3年3月までの一年間、新聞や雑誌等による150件の記事掲載があり、県内外に当館の博物館活動が広く伝えられた。掲載記事は記録集にまとめ、館職員が常時利用できるようにするとともに、年2回行われる博物館協議会において委員へ配付した。また、ウェブサイト上に各種団体やサークル等が、博物館で開催されるイベント等を紹介する機会も徐々に増えてきた。掲載希望団体とURLを記録し、今後の広報活動に活用していく必要がある。博物館活動を広く伝える媒体である新聞や雑誌等をはじめ、マスコ

ミに対しての情報提供の内容や時期等について検証し、利用者増につながる広報活動により、当館の魅力を一層広めていきたい。

◇レファレンス

博物館では、所蔵する資料や秋田の文化や自然などに関する質問を受けている。令和2年度の県内外からの各部門等に対しての問い合わせ件数は次のとおりである。考古21件、歴史23件、民俗20件、工芸10件、生物49件、地質19件、真澄14件、先覚3件、その他14件。

5 広報出版活動

展示に関するポスターやチラシについては、新型コロナウイルス感染拡大の影響による展示内容の変更に伴って周知規模を縮小することもあったが、年間発送計画に従い予定していた時期に関連団体や学校等へ配布した。

地元情報誌等への情報提供やSNSによる情報発信については、コロナの影響を鑑みて積極的な広報活動を控えざるを得ない時期もあったが、年度後半から徐々に従来の頻度となるよう努めた。

ホームページは、コロナ禍の状況下で来館が難しい利用者への対応として、企画展の様子を紹介する動画やわくわくたんけん室のダウンロード用アイテムの掲載などを試みた。

昨年度より秋田魁新報社からの依頼で寄稿している「すいよう学芸館 美を知る」に今年度は12回掲載となり、学芸職員が当館の収蔵資料や展示について紹介した。

広報活動

◇広報計画の策定と実施

広報は特別展・企画展の開催および燻蒸消毒に伴う休館の周知に合わせ年5回の定期発送の計画を策定した。この定期発送では、各展示のポスター・チラシのほか当館が発行した各広報誌やイベント情報等の印刷物を、県内の学校、図書館、公民館などの公共施設や県内外の博物館、道の駅などの観光施設等に発送し、掲示を依頼した。

また、定期発送は展示の情報が事前に周知されるよう、

展示開始の1か月前を目処に発送時期を設定した。ポスター等の納期に合わせた準備や各担当者からの協力もあり、概ね予定通りの発送を行うことができた。

◇その他の広報活動の実施と改善

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染予防に対応するため例年とは違った広報活動を行った。例年であれば、特別展や企画展の開催前に各報道機関が所属する県

庁記者クラブに教育庁総務課を通じてプレスリリースを行って情報の周知を図っていたが、変更せざるを得なくなった。その一例が、令和2年4月25日から開催予定であった企画展重要文化財「菅江真澄遊覧記」の公開でプレスリリースの準備はしていたが、緊急事態宣言下であり、開催開始日も変更することになりプレスリリースもできなかった。このため例年であれば、プレスリリースの回数も15回以上にのぼるが、令和2年度は3回にとどまった。

しかしながら、各企画展では、報道機関からの取材も

あり、新聞等で紹介された。また秋田県教育委員会の広報誌「教育あきた」、秋田県広報紙「あきたびじょん」、秋田県の公式ウェブサイト「美の国あきたネット」等への掲載も行った。

広報は、集客に直結するものであるが、コロナ禍の中で、密を避けるという観点からも積極的な広報活動ができないというジレンマが残った1年であった。このようなことから、オンラインを活用した広報活動など従来の紙媒体に頼らない工夫をして、多くの県民に興味・関心をもっていただけるような取り組みを検討していきたい。

出版物の刊行・配布

◇展示ポスター

企画展「重要文化財『菅江真澄遊覧記』の公開」	B 2判	1,200部
企画展「蓑虫山人－秋田を歩いた漂泊画人－」	B 2判	50部
企画展「継承逸品（うけつがれしぶんかざい） －秋田県立博物館収蔵名品展－」	B 2判	50部
企画展「秋田の石ころ」	B 2判	1,200部

◇展示広報チラシ

企画展「重要文化財『菅江真澄遊覧記』の公開」	A 4判	20,000部
企画展「蓑虫山人－秋田を歩いた漂泊画人－」	A 4判	300部
企画展「継承逸品（うけつがれしぶんかざい） －秋田県立博物館収蔵名品展－」	A 4判	300部
企画展「秋田の石ころ」	A 4判	20,000部

◇展示解説資料

秋田の先覚記念室企画コーナー展 「農民文学の作家 伊藤永之介」	A 4判	8頁	1,000部
企画展「重要文化財『菅江真澄遊覧記』の公開」	A 4版	12頁	3,000部

◇広報誌

博物館ニュースNo. 171・172	A 4判	8頁	各2,300部
広報紙「真澄」No. 38	A 4判	8頁	1,500部

◇報告書等

年報 令和2年度	A 4判	47頁	1,000部
秋田県立博物館研究報告第46号	A 4判	42頁	600部
真澄研究第25号	A 5判	96頁	500部

インターネット利用

令和2年度のホームページアクセス数は約4万回であるが、昨年度と比べて減少している。新型コロナウイルスや冬季間の豪雪等の影響で、博物館の利用を控えた人が県内外ともに増え、また館内イベントの多くが中止となったことなども原因の一つかもしれない。

電子メールについては、県内外からの様々な問い合わせ、博物館教室や講演会などの申し込みなどがあり、担当者が定期的にチェックして対応している。また、外部とのデータのやり取りで使用頻度が上がってきている。

6 学習振興活動

学習振興活動は、体験型展示室の運営と学校団体利用の支援、促進が中心となっている。また、振興活動として高校生インターンシップ・ボランティア活動や中学生職場体験についても積極的に受け入れを行っている。

体験型のわくわくたんけん室は自由に物作りや学習ができる環境をつくっていたが、新型コロナウイルス感染症の予防対策から一時的に休止することになった。その後11月から3月末まで、わくわくたんけん室は毎週土曜日へのみの開室となった。

石膏で作る化石や古銭のレプリカづくりについても対

面での作業になり1メートル以上の身体的距離を確保するのが難しいことから実施を見送った。

企画展や特別展の連携事業や各種イベントもわくわくたんけん室が閉室となったため、実施されなかった。

学校団体の利用については、5月から6月にかけて新型コロナウイルス感染症の拡大によってキャンセルが相次ぎ、利用数が大幅に減少した。下半期に入り利用数は徐々に回復し、9月から10月にピークを迎えた。9月から11月までの3か月で3,800人を超える利用者の受け入れを行った。

わくわくたんけん室の運営

◇一般及び団体利用への支援・指導

わくわくたんけん室は、多くの家族連れが訪れる体験型の展示室であり、家族連れの来館目的の1つにもなっていたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため4月から11月まで閉室した。また、年間を通して行われていた各種イベントも全て中止となった。閉室期間中、室内で体験できたぬり絵について限定15点をホームページ上でダウンロードできるような形で提供した。

わくわくたんけん室は11月22日より毎週土曜日に開室することになり、あねさま人形やイタヤウマ等のペーパークラフトも徐々に提供できるようになった。室内での長時間の滞在を防ぐために開室時間を午前、午後に分け、それぞれ90分間の受け入れとした。11月22日から3月末まで15回開室し、429名の利用者となった。



新型コロナウイルスの感染予防対策のため次のような変更を行った。

- ①前後の出入口をカウンター側の入口にまとめ、入退室の導線を別々に確保

- ②手指消毒用アルコールの設置

- ③利用受付の設置

- ④大型空気清浄機やサーキュレーターの設置

- ⑤室内レイアウトの大幅変更と休憩用じゅうたんの撤去

- ⑥宝箱、書籍類の利用休止

- ⑦電車乗車体験、さきおり体験、和装試着体験、たたみ染め体験の休止

- ⑧化石や古銭のレプリカづくりの休止

◇室内・体験アイテムの保守管理

令和2年当初から続くコロナ禍により、わくわくたんけん室は2月29日以降閉室を余儀なくされた。それにより、同室内の各種アイテム、物品の保守管理の業務も一時停滞した。室内の資料を直接手に取ることができ、また道具を使用してアイテムを作成する体験型展示室という性質上、三密を避け、十分な衛生環境を常時維持することは現状のままでは難しい。

閉室期間は8か月以上に及んだが、この間、平日頃手が及ばない細かい部分までの清掃と、現在は使われていないアイテム等の不要品の廃棄を行い、室内の整理に努めた。また各アイテムを検分し、メンテナンスや補修を行った。

わくわくたんけん室は11月より再開されたが、これに先んじて、感染予防に配慮した運営方法の検討を行うとともに、アイテムの見直しを行い、提供可能なアイテムの選別を行った。物品の補充に関しては、特に消毒剤、アルコールティッシュ、使い捨て手袋等の衛生に関わる消耗品が十分な量備えられるように留意した。

現在、日時・人数・利用可能なアイテムは制限されているが、そのような状況下でも利用者を楽しんでいただくよう努めたい。

◇宝箱及び体験アイテムの改善・開発

今年度は新型コロナウイルスの流行に伴い、4月からわくわくたんけん室そのものが閉室となった。11月22日からは再開したものの、コロナ禍の状況を考慮して、土曜日のみの開室とした。そのため宝箱を使用した活動は全て休止となり、また体験アイテムに関しても、これまでと同様のアイテム提供はできず、一部のアイテムのみの提供となっている。ただ、そのような状況下であってもできる内容を模索し、一部のぬり絵やペーパークラフトのアイテムをホームページ上で公開し、各家庭でダウンロードして体験できるような環境を整えた。

また和紙のたたみぞめ体験についても、11月から日曜日のみではあるが、換気のできる1階実験教室で行っている。換気その他、上限人数を15名とし、三密を回避することや入室時の手指消毒の徹底など、新型コロナウイルスの感染拡大防止に気を配りながら行っている。今後はたたみぞめ体験でのノウハウを生かして、レプリカ人形作りなどの活動もできるように準備を進めていきたい。

◇季節アイテム、イベント

わくわくたんけん室は通常であれば、毎日の「たたみ染め」と「レプリカづくり」、春と夏には「ミッションをクリアしてお宝をゲットせよ!」、子どもたちの夏休みに合わせて「貝の標本づくり」、冬は「ミニ門松・しめ縄づくり」や「木の実アートづくり」など月ごと、季

節ごとに合わせてイベントを行い、幼児から高齢者まで幅広い年齢層の方々に利用いただいていたが、今年度は閉室状態でのスタートとなった。11月からは、土曜日に限り検温と消毒を徹底し、時間や利用人数に制限を設けた上で開室するに至り、わくわくたんけん室の中で体験できるアイテムは、「折り紙」、「コマづくり」、「イタヤウマづくり」、「あねさま人形づくり」の4つに絞って提供した。大人から子どもまで人気の「ぬりえシリーズ」は博物館のホームページからダウンロードできるようになっているので、ぜひご自宅で楽しんでいただきたい。わくわくたんけん室では、より多くの年齢層に安全に利用していただけるよう、新しいアイテムや提供方法を考案していきたいと考えている。

◇出張わくわくたんけん室

- ・自然科学学習館イベント 中止
7月12日(日) 会場 アルヴェ
- ・ジオパーク推進協議会主催イベント 中止
8月9日(日) 会場 アルヴェ
- ・自然科学学習館イベント 中止
10月10日(土) 会場 アルヴェ

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、主催者側の判断によってそれぞれのイベントが中止となった。職員の派遣は無かった。

学校団体による博物館利用の支援

◇セカンドスクールの利用

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、予約団体には入館時のマスク着用、手指消毒の徹底のほか、展示室に一度に入室する人数を制限するなどの対策を講じ受け入れを行った。4月と5月は閉館のため、6月から本格的に学校団体の受け入れを再開したが、4月～6月の3か月間での利用校は4校、利用人数140人に止まった。昨年度は同月3か月間で利用校52校、利用人数2,601人の実績があったことを考えると激減はしたが、やむを得ない結果である。

先の読めない状況下で、多くの学校が予定していたセカンドスクールを秋以降に日程を変更した。その結果、9月から11月までの3か月間に利用者数が集中し、昨年度同月の3か月間で利用した人数の約2.2倍まで増加した。県内外の旅行会社からの博物館利用の問い合わせが多く寄せられたことも今年度の特徴である。県外への修学旅行を断念した県内の小・中学校が、研修旅行先とし

て当館を選定したことが秋の利用増加に拍車をかけた。修学旅行を機に初めて利用した学校も見受けられ、新規学校団体の開拓に繋がった可能性がある。次年度の利用校増加を期待したい。反対に、利用が減少した校種は幼児と特別支援学校であった。とりわけ感染症に注意を払う必要がある学校種では校外学習を敬遠したと思われる。

	令和2年度		令和元年度		平成30年度	
	学校数	利用人数	学校数	利用人数	学校数	利用人数
幼稚園・保育所	3	109	16	604	19	863
小 学 校	87	4,257	73	3,630	84	4,079
中 学 校	16	863	15	351	24	1,300
高 等 学 校	4	230	30	771	14	417
特別支援学校	0	0	6	54	4	33
そ の 他	0	0	1	33	3	74
合 計	110	5,459	141	5,443	148	6,766

月ごと、学校種で利用の偏りがみられた1年であったが、年間を通した利用人数は昨年度と比較すると16人増加と、ほぼ昨年度並みとなった。

◇出前授業

小学校13校716名 中学校4校233名

(昨年度 小学校4校213名 特別支援学校1校5名)

博物館に訪れて展示室や学習室で実物資料に触れることは大変意義のあることなのだが、学校にとってはバス移動のための費用や時間等の負担が大きい。その点、出前授業は学校に居ながら実物資料に触れたり、学芸職員の話の聞くことができることで学校にとってもメリットがある。

今年度、年度当初からセカンドスクールで博物館にいらした先生方に出前授業の広報を行った。また、県生涯学習課から10月に出された『「出前セカンドスクール」実施について』でも広報された。これらなどから情報を得た学校から、多くの問い合わせがあり、地質の授業を増やすことができた。

小学校3年生の「昔の暮らし」は通常のセカンドスクール対応もある中での出前授業で、民俗担当の負担が大きかったと思われる。次年度も同様の申し込みが見込まれるので対応について検討したい。

・小学校3年	……	民俗（昔の暮らし）	5校
・小学校4年	……	民俗（秋田の祭・行事）	2校
・小学校6年	……	地質（大地のつくり）	6校
・中学校1年	……	民俗（北前船と秋田）	1校
・中学校1年	……	歴史（秋田県の歴史）	1校
・中学校1年	……	地質（大地の変化）	2校

◇職場体験、インターンシップ

今年度実績 職場体験・インターンシップともになし

(昨年度 職場体験4校11名 インターンシップ4校9名)

新型コロナウイルスの影響で、今年度の申し込みはなかった。今後に向けて、職場体験・インターンシップで行うことができる博物館業務を掘り起こしていきたい。

◇教員のための博物館の日

8月4日（火）、各学校種及び教育機関などから合わせて17名の参加があり、「教員のための博物館の日」を実施した。午前中は、セカンドスクール利用の概要紹介や、わくわくたんけん室の利用について説明をした。また分館・旧奈良家住宅においては、概要説明と昔の人の暮らしや昔の道具などの授業を行う際に活用できる箇所・ものについての解説を行った。午後からは、わくわくたんけん室にて、和紙のたたみ染めの製作体験を行い、活動時間や作業の難易度を体感してもらった。その後、企画展の見学及び本館各展示室を2コースに分かれての見学を行った。いずれも学芸職員が解説を行った。見学後は、学習室・実験教室に移動し、貸出資料についての説明を各部門ごとに詳しく行い、活用方法などについても紹介した。

国立科学博物館が中心となって連携実施している「教員のための博物館の日」に加盟して4年目の実施となった。今年度はコロナ禍での開催となり、全国の共催各館が開催中止やリモートでの開催を検討する中、当館でも開催可否について検討しながらの準備となった。一時は開催そのものも危ぶまれたが、三密の回避や手指消毒の励行などの感染拡大防止対策の徹底を図り、何とか無事に実施することができた。参加者にはコロナ禍でも安心して参加できる環境だったなどの感想をもらった。次年度も、当館のセカンドスクール利用への更なる啓蒙を図るためにも、よりよい活動を目指したい。

7 館外活動

◇執筆（著者・論文など、「研究報告第46号」は除く）

・松山 修

共編著『菅江真澄没後記念祭資料集』（東京学芸大学）

「春代さんが大事にしたもの」（『春のだいち（抄）』

石井正己編、東京学芸大学）

「菅江真澄が記録した感染症・疱瘡」（『感染症をめぐる歴史認識と教材開発のための基礎的研究』東京学芸大学）

・加藤 竜

「第Ⅱ部 各都道府県の動向 5 秋田県」（『日本考古学年報』71、2018年度版）

・角崎 大

「菅江真澄が見たアイヌ」（別冊太陽『アイヌをもっと知る図鑑』平凡社、2020年5月）

◇講演、講座など

・高橋 正

「熊野信仰と人びとの暮らし」（由利耕心大学）

「秋田県立博物館と菅江真澄研究」（菅江真澄研究会）

・藤原尚彦

「秋田の藍染」（鹿角市歴史民俗資料館）

- ・新堀道生
「6県リレー講座日本遺産・北前船の寄港地を巡る
歴史・文化の旅」(中日文化センター)
「仁賀保金七郎宛 疫病神の詫び証文」(にかほ市郷
土史市民講座)
- ・丸谷仁美
「山と生きる」(中央ナイスミドルカレッジ)
- ・黒川陽介
「令和2年度やさしい古文書解説講座(第3回:江
戸時代の往来手形を読む)」(にかほ市象潟郷土資
料館主催)

◇委員委嘱

- ・新野直吉
史跡弘田柵跡調査指導研究委員(委員長)
後三年合戦(役)等関連遺跡整備指導委員会特別委員
由理柵・駅家研究会顧問
- ・高橋 正
岩手県文化財保護審議委員

- 秋田県文化財収録作成調査委員
- 横手市文化財保護審議会委員
- 美郷町文化財保護審議会委員
- 横手市歴史文化基本構想策定委員
- 湯沢市文化財保存活用地域計画協議会委員
- 秋田市佐竹史料館改築検討委員
- ・藤原尚彦
大潟村干拓博物館協議会委員
- ・新堀道生
由利本荘市文化財保護審議会委員
文化財収録作成調査委員
- ・丸谷仁美
横手市文化財保護審議会委員
湯沢市文化財保護審議会委員
日本民具学会評議員
由利本荘市民俗芸能伝承会運営協議会委員
八戸地方えんぶり調査委員会調査員

8 令和2年度のあゆみ

◇新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言発
令に対応した臨時休館

4月21日(火)～5月10日(日)

◇防災訓練 5月21日(木)

本館及び分館において地震発生を想定した避難訓練、
通報訓練、消火訓練等を実施した。

◇秋田県立博物館における新型コロナウイルス感染症拡
大予防対策ガイドラインの策定 6月12日(金)

(公財)日本博物館協会におけるガイドライン策定を
受け、当館のガイドラインを策定し、職員の共通理解を
図った。

7月と9月には、国の基本方針や日本博物館協会ガイ
ドライン等の変更を受け、内容の一部改訂をした。

コロナ感染症対策として、次のとおり館内設備を整え
た。

- ・1月～ サーマルカメラを設置し検温を開始
- ・2月～ トイレ手洗器を自動水栓に改修
1階出入口引き戸1箇所を自動ドアに改修
- ・3月～ 展示室映像機器等スイッチの一部を押しボ
タン式からセンサー式に改修

◇第1回秋田県立博物館協議会 8月7日(金)
博物館における新型コロナウイルス感染症等の対策に
ついて協議を行った。

◇応急手当講習会 11月5日(木)

土崎消防署救急隊員を講師に招き、心肺蘇生法の手順
とAEDの操作方法の講習会を実施した。

◇文化財防火デー防災訓練 2月3日(水)

1月26日の文化財防火デーに因み、重要文化財である
旧奈良家住宅(分館)において、火災発生を想定した避難
訓練、通報訓練、消火訓練等を実施した。

◇第2回秋田県立博物館協議会 3月8日(月)

新型コロナウイルス感染症予防のため、対面での会議
を取り止め、書面開催により実施した。今年度事業の経
過と次年度事業の計画案を報告事項とした。また、これ
までの博物館における新型コロナウイルス感染症対策の
取組実績と今後のコロナ禍における館の方向性等を協議
事項とし、委員の皆様からご意見をいただいた。



資

料

I 収蔵資料の概要

収蔵資料総数 （令和3年4月1日現在）

総集	美術	工芸	歴史	考古	民俗	生物	地質	先覚	真澄	計
3,759	450	13,715	9,161	2,641	10,541	125,798	17,505	5,572	2,233	191,375

文化財指定物件一覧（館蔵資料）

指定区分	部門	記号番号	物件名	数量	指定年月日	
県	美術	絵画第6号	紙本着色 秋田風俗絵巻	1巻	昭和29. 3. 7	県指定有形文化財（絵画）
県	工芸	工芸第40号	刀 銘出羽住忠秀刻印	1口	昭和38. 2. 5	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第34号	鐔 壇溪図	1枚	昭和38. 2. 5	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第53号	短刀 銘天野藤原高真作 元治元年吉日	1口	昭和44. 8. 9	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第60号	刀 銘天野河内助藤原高真 慶応二丙寅八月吉日 応三森 光茂需作之	1口	昭和48. 6.16	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第63号	魚藻文沈金手箱	1合	昭和53. 2.14	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第62号	鐔（あやめ図透彫） 銘 出羽秋田住正阿弥二代作 享保十八年三月日	1枚	平成 3. 3.19	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第67号	刀 銘羽州住兼廣作 安政四年三月吉日	1口	平成 4. 4.10	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第66号	秋田家資料（刀剣類ほか）	1括	平成11. 3.12	県指定有形文化財（工芸）
国	考古	考古資料第362号	人面付環状注口土器 秋田県南秋田郡昭和町大久保 字狐森出土	1口	昭和53. 6.15	重要文化財（考古資料）
県	考古	考古資料第25号	勾玉および玉類 （枯草坂古墳出土）	52点	昭和57. 1.12	県指定有形文化財（考古資料）
県	考古	考古資料第26号	鉢形土器（沢田遺跡出土）	1点	昭和57. 1.12	県指定有形文化財（考古資料）
県	考古	考古資料第27号	穀丁遺跡出土品（青磁碗他）	1括	昭和58. 2.12	県指定有形文化財（考古資料）
国	考古	考古資料第435号	磨製石斧 秋田県雄勝郡東成瀬村田子内 上掬出土	4箇	昭和63. 6. 6	重要文化財（考古資料）
県	歴史	歴史資料第6号	久保田城下絵図	1幅	平成 1. 3.17	県指定有形文化財（歴史資料）
県	歴史	歴史資料第7号	紙本金地着色 男鹿図屏風	六曲 一双	平成 3. 3.19	県指定有形文化財（歴史資料）
県	歴史	書跡典籍第10号	平田篤胤竹画讃	1幅	昭和39.11.17	県指定有形文化財（書跡・典籍）
県	歴史	書跡典籍第11号	平田篤胤書簡	1巻	昭和39.11.17	県指定有形文化財（書跡・典籍）
県	歴史	書跡典籍第12号	平田篤胤和魂漢才	1幅	昭和39.11.17	県指定有形文化財（書跡・典籍）
県	歴史	書跡典籍第17号	手柄岡持（朋誠堂喜三二） 自筆作品並びに関係資料 （江都前後赤壁）	1点	平成30. 3.16	県指定有形文化財（書跡・典籍）
国	民俗	建造物第1594号	旧奈良家住宅	1棟	昭和40. 5.29	重要文化財（建造物）
国	民俗	第5-130号	旧奈良家住宅味噌蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-131号	旧奈良家住宅文庫蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-132号	旧奈良家住宅座敷蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-133号	旧奈良家住宅新住居	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-134号	旧奈良家住宅南米蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-135号	旧奈良家住宅北米蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-136号	旧奈良家住宅北野小休所	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
県	民俗	民俗資料第12号	県内木造船資料	13点	平成 4. 4.10	県指定有形民俗文化財
県	民俗	民俗資料第13号	秋田柚子造材之画	1点	平成 5. 4. 9	県指定有形民俗文化財
国	生物		田沢湖のクニマス（標本）	1点	平成20. 7.28	登録記念物

Ⅱ 歴代館長、特別展等一覧

名誉館長

新 野 直 吉	平成12年4月～
---------	----------

歴代館長

佐 藤 文 夫	昭和50年5月～昭和52年3月
加賀谷 辰 雄	昭和52年4月～昭和53年3月
奈 良 修 介	昭和53年4月～昭和58年3月
畠 山 芳 郎	昭和58年4月～昭和63年12月
斉 藤 長	昭和64年1月～平成元年3月
佐 藤 巖	平成元年4月～平成3年8月
橋 本 顕 信	平成3年9月～平成4年3月
近 藤 貢太郎	平成4年4月～平成7年3月
高 橋 彰三郎	平成7年4月～平成9年3月
新 野 直 吉	平成9年4月～平成12年3月
富 樫 泰 時	平成12年4月～平成15年3月
佐々田 亨 三	平成15年4月～平成17年6月

三 浦 憲 一	平成17年6月～平成18年3月
沢 井 範 夫	平成18年4月～平成20年3月
佐々木 義 幸	平成20年4月～平成21年3月
鈴 木 幸 一	平成21年4月～平成22年3月
荒 川 恭 嗣	平成22年4月～平成23年3月
神 馬 洋	平成23年4月～平成25年3月
風 登 森 一	平成25年4月～平成27年3月
佐々木 人 美	平成27年4月～平成29年3月
山 口 多加志	平成29年4月～平成30年3月
山 田 浩 充	平成30年4月～平成31年3月
高 橋 正	平成31年4月～令和3年3月
今 川 拓	令和3年4月～

特別展等一覧

昭和53年1月	地域展	伝説の里鹿角
7月	特別展	(東京国立博物館巡回展) 日本の美
10月	特別展	文化庁所蔵優秀美術作品展
55年1月	地域展	鳥海山麓ー山と人ー
7月	特別展	日本の時代服飾
56年9月	東北展	東北の仮面
58年1月	地域展	平鹿ー水とくらしー
7月	特別展	はにわ
59年5月	東北展	東北の近世大名
60年12月	地域展	能代・山本 ー川と山のくらしー
61年7月	特別展	世界の貝
62年6月	東北展	出羽の近世大名
63年5月	特別展	神々のかたちー仮面と神像ー
平成元年6月	特別展	日本列島発掘展
11月	地域展	湯沢・雄勝の文物展
2年7月	特別展	日本のやきもの
3年4月	特別展	世界の昆虫
4年7月	特別展	近世美術の華
5年4月	特別展	鳥ってなあに
6年4月	特別展	北方文化のかたち
7年4月	特別展	地球を見つめる小さな眼
8年10月	特別展	ラ・ビレット ー科学の遊園地ー
9年11月	特別展	日本のわざと美

平成10年4月	特別展	ネアンデルタール人の復活
11年4月	特別展	おもちゃ
12年10月	特別展	(国立博物館美術館巡回展) 信仰と美術
16年9月	特別展	オリエント文化展
10月	北東北三県共同展	描かれた北東北
17年7月	特別展	いきもの図鑑 ー牧野四子吉の世界ー
18年9月	特別展	熊野信仰と東北 ー名宝でたどる祈りの歴史ー
19年7月	北東北三県共同展	北東北自然史博物館
20年7月	特別展	昆虫の惑星
21年4月	特別展	白岩焼
22年5月	北東北三県共同展	境界に生きた人々
23年7月	特別展	粋なよそおい 雅なよそおい
24年9月	特別展	アンダー×ワンダー！ ー北東北の考古学最前線ー
25年7月	特別展	あきた大鉄道展
26年9月	特別展	菅江真澄、旅のまなざし
27年9月	特別展	徳川将軍家と東北
28年9月	特別展	発掘された日本列島2016
29年7月	特別展	妖怪博覧会 ー秋田にモノノケ大集合！ー
30年7月	特別展	あきた大鉄道展 HEー30系
令和元年7月	特別展	1964ー世界の祭典から半世紀ー

Ⅲ 秋田県立博物館条例

(昭和50年3月12日公布
昭和50年5月1日施行
平成31年10月1日最終改正)

(設置)

第1条 郷土の自然と人文に関する認識を深め、県民の学術及び文化の発展に寄与するため、秋田県立博物館(以下「博物館」という。)を秋田市金足嶋崎字後山52番地に設置する。

(職員)

第2条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(博物館協議会)

第3条 博物館に秋田県立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、委員15人以内で組織する。

3 委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

- 一 学校教育及び社会教育の関係者
- 二 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- 三 学識経験のある者
- 四 博物館の利用者

4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(入場料等の徴収)

第4条 博物館本館において特別の展示を行う場合は、同館に入館しようとする者から入館料を徴収する。

2 前項の入館料の額は、別表第1に定める額の範囲内においてその展示の都度知事が定める。

3 地方自治法(昭和22年法律第67号)第238条の4第7項の規定による許可を受けて講堂又は学習室を使用しようとする者から、別表第2に定めるところにより使用料を徴収する。

(入館料等の減免)

第5条 知事は、特別な理由があると認めたときは、入館料又は使用料を減免することができる。

(入館料等の不還付)

第6条 既に徴収した入館料又は使用料は、還付しない。ただし、知事は、講堂又は学習室の使用について、使用者の責に帰することのできない事由により、使用することができなくなったときその他特に必要があると認めたときは、その一部又は全部を還付することができる。

(施行規定)

第7条 この条例の施行に関し必要な事項は、別に定める。

別表第1(第4条関係)

入館料の上限額

区 分	金 額	
	個 人	20人以上の団体
小学校児童及び中学校生徒	200円	1人につき 160円
高等学校生徒並びに高等専門学校及び大学の学生	400円	1人につき 320円
一 般	600円	1人につき 480円

備考：この表における「小学校児童及び中学校生徒」及び「高等学校生徒並びに高等専門学校及び大学の学生」には、それぞれこれらの者に準ずる者を含むものとする。

別表第2(第4条関係)

区 分	金 額
講 堂	1 日 11,940円
	半 日 5,970円
学 習 室	1 日 3,560円
	半 日 1,780円

IV 秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋） 教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋）

◎ 秋田県教育委員会行政組織規則

第26条 秋田県立博物館（以下「博物館」という。）の所掌事務は、次のとおりとする。

- 一 博物館事業の企画運営に関すること。
- 二 資料の収集、保管及び展示に関すること。
- 三 資料の専門的・技術的な調査研究に関すること。
- 四 資料の解説及び広報活動に関すること。
- 五 秋田県立博物館協議会に関すること。

◎ 教育機関の管理及び運営に関する規則

第9章 博物館

（開館時間）

第38条 秋田県立博物館（以下この章において「博物館」という。）の開館時間は、次のとおりとする。ただし、博物館の長（以下この章において「館長」という。）は、必要があると認める場合は、当該時間を変更することができる。

期 間	時 間
4月1日から10月31日まで	午前9時30分から午後4時30分まで
11月1日から3月31日まで	午前9時30分から午後4時まで

（休刊日）

第39条 博物館の休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。

- 一 月曜日（当該日が休日又は8月29日に当たるときは、その翌日）
- 二 年始（1月1日から1月3日まで）
- 三 年末（12月28日から12月31日まで）

（使用の許可の申請等）

第40条 講堂又は学習室の使用について地方自治法（昭和22年法律第67号）第238条の4第7項の規定による許可を受けようとする者は、館長の定めるところにより、申請書を館長に提出し、その許可を受けなければならない

2 第11条第2項の規定は、講堂又は学習室の使用の許可について準用する。

V 入館者に関する資料

(1) 入館者数内訳

2019年度

総入館者数 79,536人

有料展示

1964－世界の祭典から半世紀－

令和2年度

総入館者数 50,831人

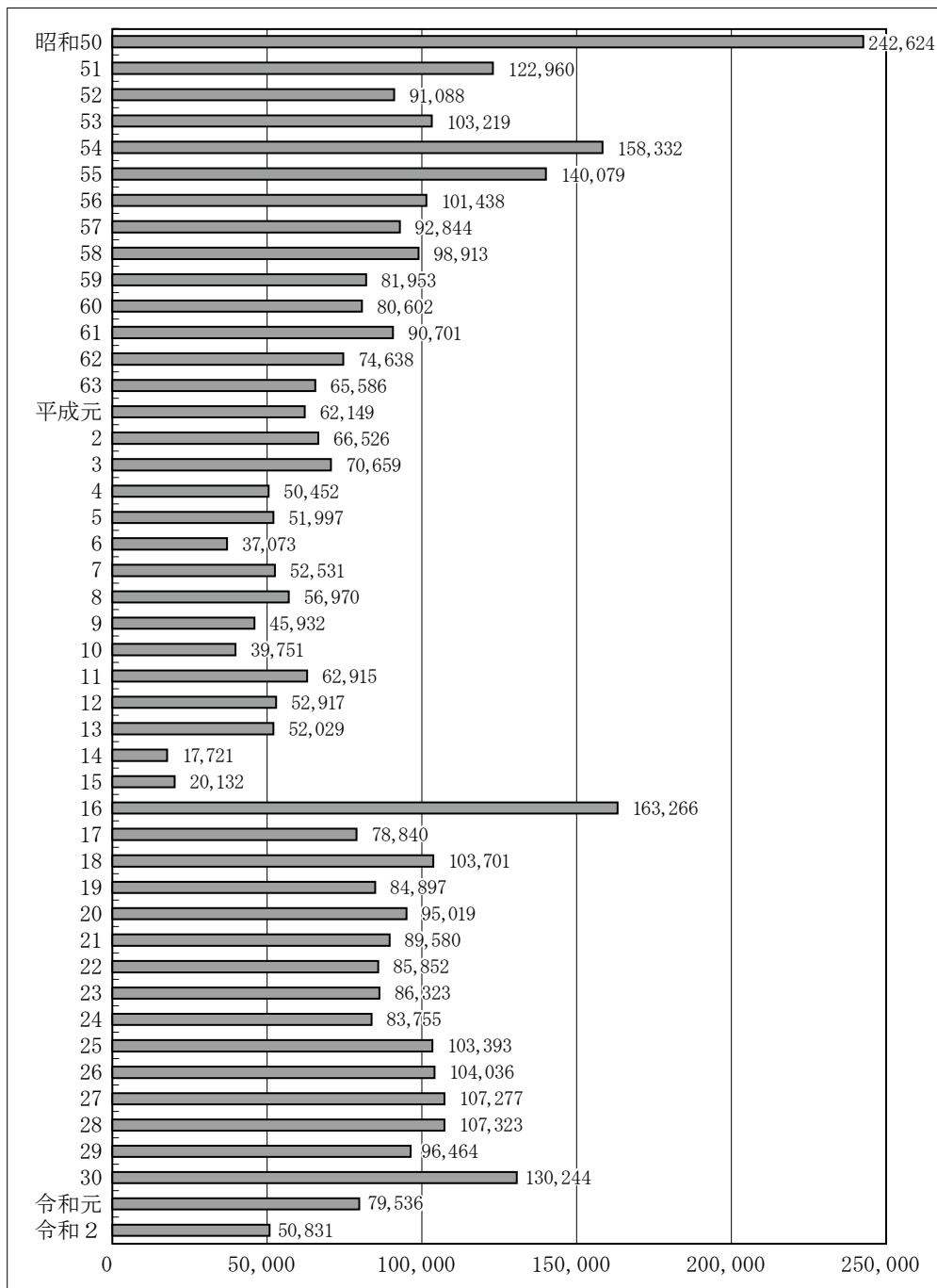
有料展示

開催中止

(新型コロナウイルス感染症拡大による)

(2) 年度別入館者数の推移

延べ入館者数 3,935,068人（令和2年度末）



※平成14・15年は、リニューアル工事期間中につき、秋田の先覚記念室・菅江真澄資料センター・分館旧奈良家住宅のみ開館

～交通案内～

使 用 料

区 分		金 額
講 堂	1 日	11,940円
	半 日	5,970円
学 習 室	1 日	3,560円
	半 日	1,780円



本 館

J R 東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩20分
バス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩15分

車 : 秋田自動車道昭和男鹿半島 I C より
10分、秋田北 I C より15分
秋田市中心部から国道 7 号で約15km ・
30分

分館

J R 東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩30分
バス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩25分

秋田県立博物館年報

令和3年6月発行
〒010-0124
秋田市金足鳩崎字後山52
秋田県立博物館
TEL 018-873-4121
FAX 018-873-4123

